



尾張名所圖會
後編

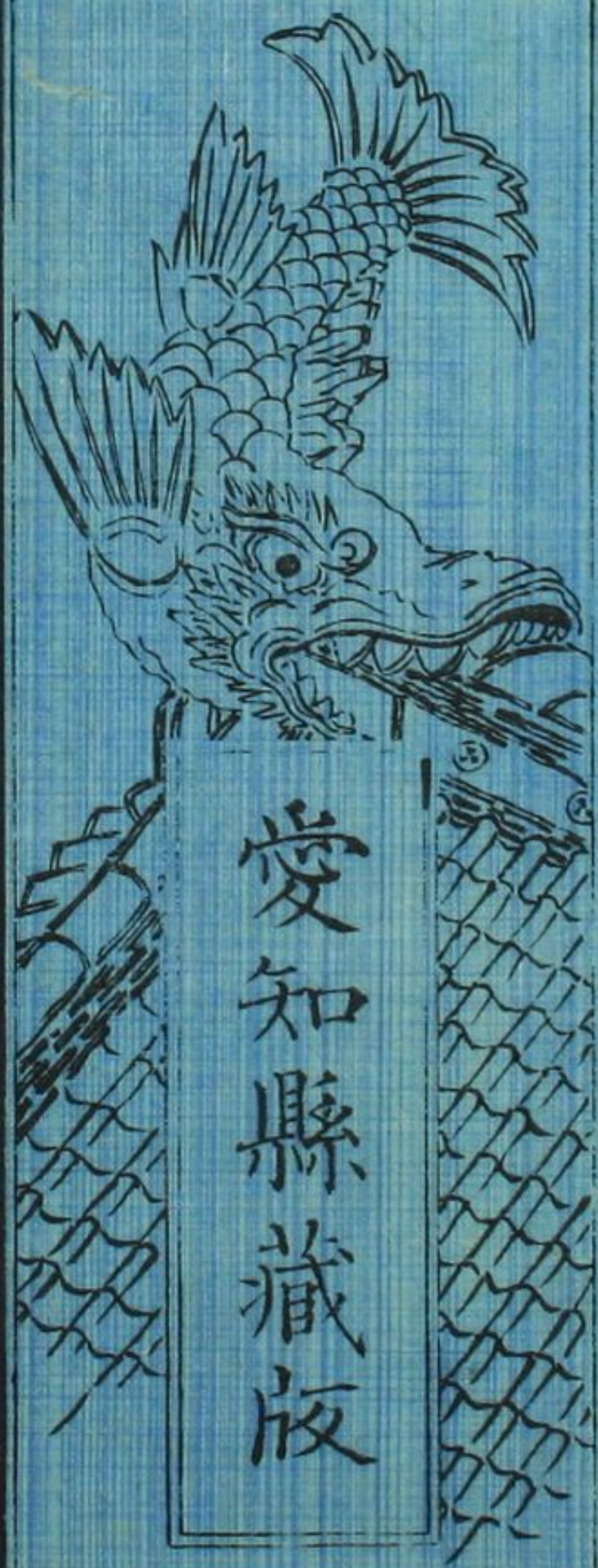
一



岡田啓
野口道直
遺稿
小田切春江
并補綴

尾張名所圖會後編

明治
十二年
九月
出版



溫故知新



庚辰二月
交第廿卷



屋張名所因繪後編序

正史之為體大者必記少者或
漏其所漏之類事而猶有可
以見風俗人心之微醜焉者是
乃稗官小說之所以為不可廢
也耶一屬者當切春江未眎

以尾張名所圖繪後編曰雜
類之少冊類見玩而其撰頗
勞方子以為有取乎則請為
一言披而閱之則勝區石蹟
浩穢悉舉古風舊俗之情
狀歷然乎圖紙上善凡撰

地誌者徵諸記記探及傳聞者
為多而親物生地驗其實
者無幾故記風俗敘事蹟
或誤或漏今如此編則足
踏其地目驗其物備證諸如
老及舊藉以謂各西敷之而

圖成熟寃之而書具者或之
以補地誌之一隅抑又思之
治化之要本之於民情之微
醜之所判未嘗有不根其
俗之所由來蓋記錄國書之
於古風俗舊俗其所觀感寃
深故為治者有以資焉然則
此編既可以備史家採摭又
可以借治者參考蓋趙謂
之非見玩也哉乃揭其所以
益乎世者書之於首簡

明沿庚辰二月

國自廣中樞



葦原眉山書



序



有大木石于此當人挽送之一人
唱耶許衆應而和思于轉之也
易多其挽者必盡其力也使
挽者一人之氣力也此蓋之化因
同具許之之力也然死鄉身
精之執牛耳而料理宰

創之未必至其體制精美如
斯然則法之之伎侮亦為小
而精之之切大亦或嗤嗤之
曰如法子則吾不知精一而為
此運之之藥何余曰吁生於華
名而圖繪者大其滿固之可也
即是古者凡出記造意也圖

臨之為物也名區陳讓存軍
美譚用記亦法以傳生實也
於乎使人親因之先尤為據
備多且精一法乃在果實之地
不故枝俎而謀獨創名法不競之
業而為昇平小補善是精一得
之之至也耳以之藏好之詩

厥刻之久而為之泐也。出位之
強滿此分之誇說之亦泐也。或
在步同聲思以多為其江以多為
梅居以多為文園其才藻富贍
率皆邦家之用之器前編之引已
一之贊之今不復言之因憶辛丑之
冬精一以其所作之引示余曰此

舉也。書待箇舉之久而來年特誌
裁之年之不可謂以勞異時後編上
來之日或煩吾子以序之為跋辭請幸
勿推吾題今始四十奉國政大改也凡諸
多及而精一義本已推之文園梅居
相存先亡同聲之存其猶春江一人已
也其也。勤勞謹以以此哉余衰

式部丞水之山神不仁之症死期在
且夕而程乃能遭乎成業之日為之
序以之務之書之感考也逆序明治
十三年五月二十三日梅軒中

山清樓題



明治十三年六月二十五日



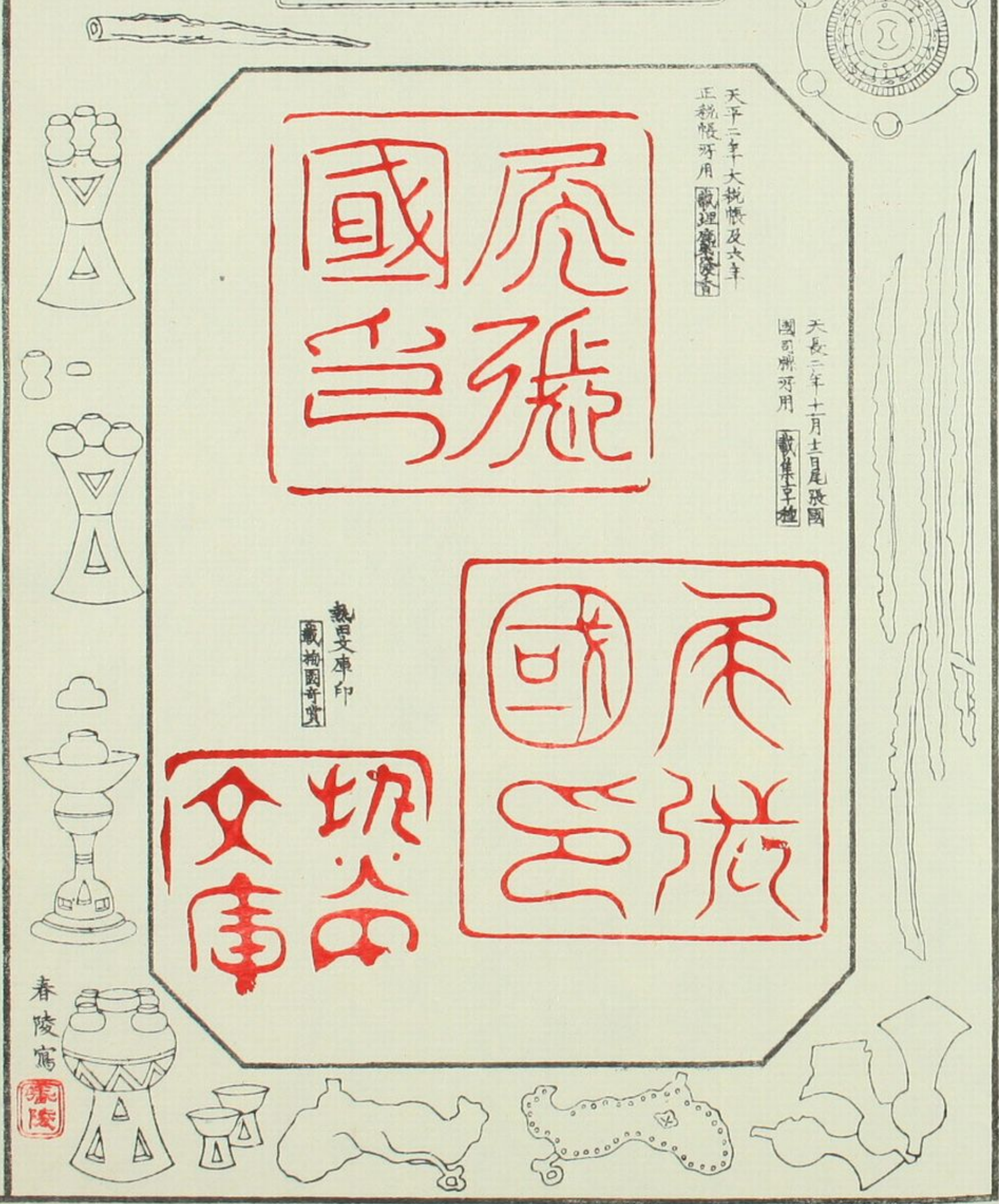
古之仁屋法多所困之海梅刺
之形也之形也之形也
徳角の古之仁屋法多所困之海梅刺
物之形也之形也之形也
之形也之形也之形也
之形也之形也之形也

尾張名所圖會後編卷之一

目錄 中島郡上

| | | | |
|-----------|-------|---------|---------|
| 中島郡解 | 一宮村 | 真清田神社 | 阿佛尼泰詣の圖 |
| 末社 | 神宝并圖 | 社領 | 例祭 |
| 馬の頭の圖 | 桃花會の圖 | 神主 | 別宮 |
| 神宮寺 | 社僧福壽院 | 地藏寺 | 市立の圖 |
| 常念寺 | 火除櫻 | 御旗竿 | 天道社 |
| 濱神明社 | 関氏城跡 | 牛野 | 孝子孝女 |
| 綿曳轆轤 | 神戸村 | 酒見神社 | 神戸氏宅址 |
| 新神戸村 | 野宮神明社 | 富士塚 | 三明神社 |
| 彼岸繩手地蔵 | 武藤氏宅址 | 神明社 | 了泉寺 |
| 足利義教公詠哥の圖 | | 西方寺 | 正念寺 |
| 野府古城 | 御蒙天神社 | 義教公詠哥の松 | 金剛寺 |

白鳥中野所出古器圖



天乎三年大抵帳及六年
正稅帳牙用 藏 迎 慶 堂 印

天長三年十月十日尾張國
國司辨河用 藏 集 字 印

執事庫印
藏 抽 園 寺 實

坂本
文庫

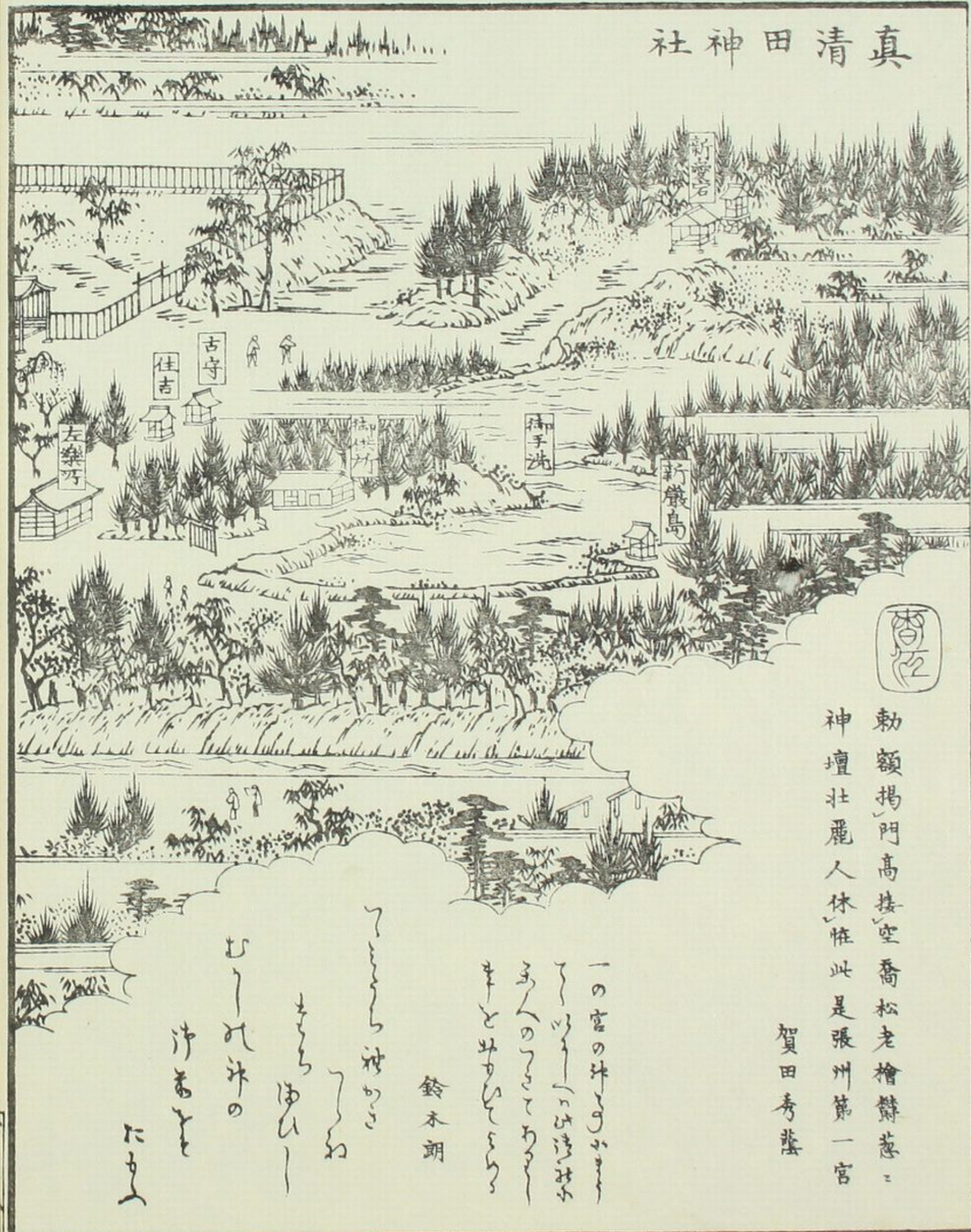
春陵
藏

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 浅井田宮丸城跡 | 國照寺 | 毛受村猿曳 | 菊安賀惣園 |
| 孝貞女三輪の傳 | 宮地花池村 | 大神神社 | 蓮花池跡 |
| 妙興寺 | 同靈宝弘通の図 | 万里和尚の古事 | 小栗海道 |
| 砥塚 | 川曲神社 | 大神社 | 拜師舊郷 |
| 陸田御厨 | 赤池里 | 三本木池 | 万徳寺 |
| 下津里 | 佛徳雷と避し圖 | 織田敏廣城址 | 加藤光泰舊宅 |
| 正明寺 | 四ッ屋 | 浅野長勝屋敷跡 | 六角堂長光寺 |
| 草部御厨 | 長束正家宅址 | 飯尾氏城跡 | 安樂寺 |
| 千町田面 | 瓦堂廢跡 | | |



本宮
 神明
 渡殿
 文庫
 寶之樓
 勅使殿
 透垣
 王燈臺
 大鼓樓
 林秀易

社神田清真



勅額揚門高接空橋松老檜鬱蔥
 神壇壯麗人休惟此是張州第一宮
 賀田秀蔭

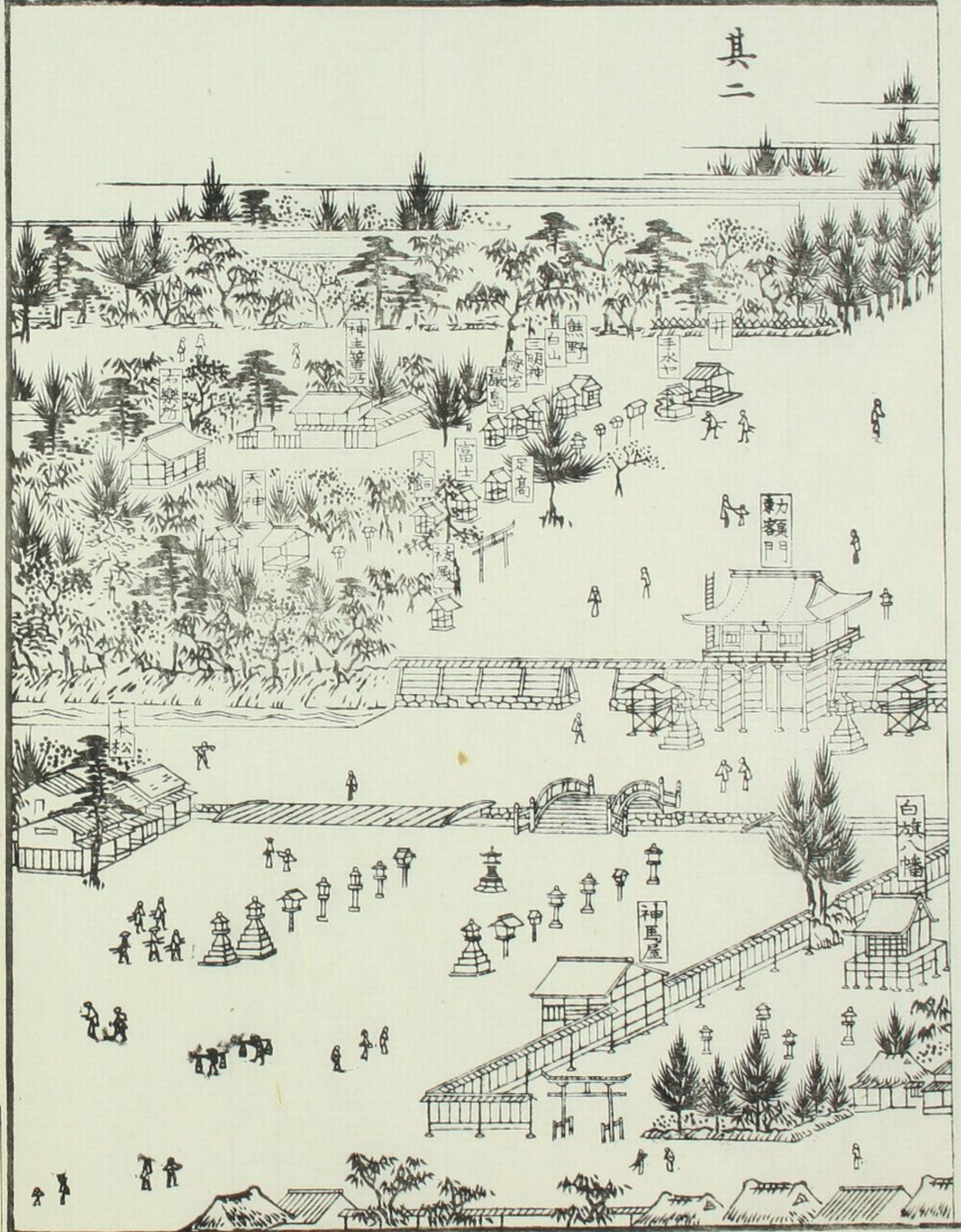
一の宮の神
 神壇の
 松老檜鬱蔥
 神壇壯麗人休
 惟此是張州第一宮
 賀田秀蔭
 鈴木朗

神代より三傳分良久
 久留の天は日と年ハ
 天地此開けしめ
 海原の海は中しめ
 葦つ矢の魂ちるめ
 敵まして國常生の
 皇神と御名を振
 てゆきれ尾住のふま
 宮柱よとよとよ
 常法みちるらも次田
 のまうれ豊秋は
 洲のゆらゆら一の
 宮柱よゆつて津の豊人
 伝らうと宇皇の豊年
 たしまるその瑞穂み
 ハサナラ振らう人波の
 秀と流て津の舞ける
 松の内かワッ
 ナ君の天御代と万代
 くしくまわりまはらぬ
 久もあつたね方里
 の宮はくろくくくく
 かくこふまはらぬの
 沖



子供ころひらくはの雲はうわ
 えりの知るぬきつ三田の貴
 竜丸
 柏子
 赤ちんちん
 漆りえん
 晩窓

其二



中嶋郡

當郡の國のうらの西戎の方にありて國史とよみり和名抄延喜式
等の古書にもふこれ中島とあり東に丹羽春日井の二郡小隣
に南に海東海西の両郡小接し西に木曾川と限り北に粟栗郡
と堺に次郡中山あり田圃のこの地なり尾張風土記殘缺中
島郡民用富貴也材用不少出脩竹柴胡大根胡麻等云云と
んんんん
ひし墨俣川尾張美濃の國界なりと天正十二年秀吉公木曾川と堺を改め
らるるゆゑ郡及び海西粟栗三郡の地木曾川西の百廿餘村を美濃の屬
ありはしりしゆ海西郡のまふなり 南郡中島宮の古縁起ふじり倭
姫命八節の竹杖と四つ折して四方小投りひしハクの竿竹と生り
しとと御園といひ其四隅のうらと中國といひ是中島の郡
名の起まるりともあり記りとも風土記などの古説ふとも
傳へありべれどや〜
一之宮村 南郡のうら東北のうら里と當國一宮大神の鎮坐す地をり名づく
あり村及び少無も村等 鳥羽天皇第三の皇女璋子内親王のうらに八條院

東鑑小池大納言家
と稱す南宮の清願と真情四つに庄園ありま真墨田
のうらに八條院の御庄の領ありやとくありて地名なり

沙汰真清田莊 尾張八條院御領右莊園任本所之沙汰彼家如元為

有知行勤状如件壽永三年四月六日とんんん又一の宮とて事も

古く同書小養久三年六月五日戊午辰刻關東西將着了尾張國一

宮邊合戦間事有評儀自此所相分方々道云云とんん養久記の同

時合戦の条十六夜日記康富記等の古書にもにか一の宮とあり

て古き地名あり

正一位真墨田神社 一宮村小池の宮と稱す延喜神名式小中島郡真墨

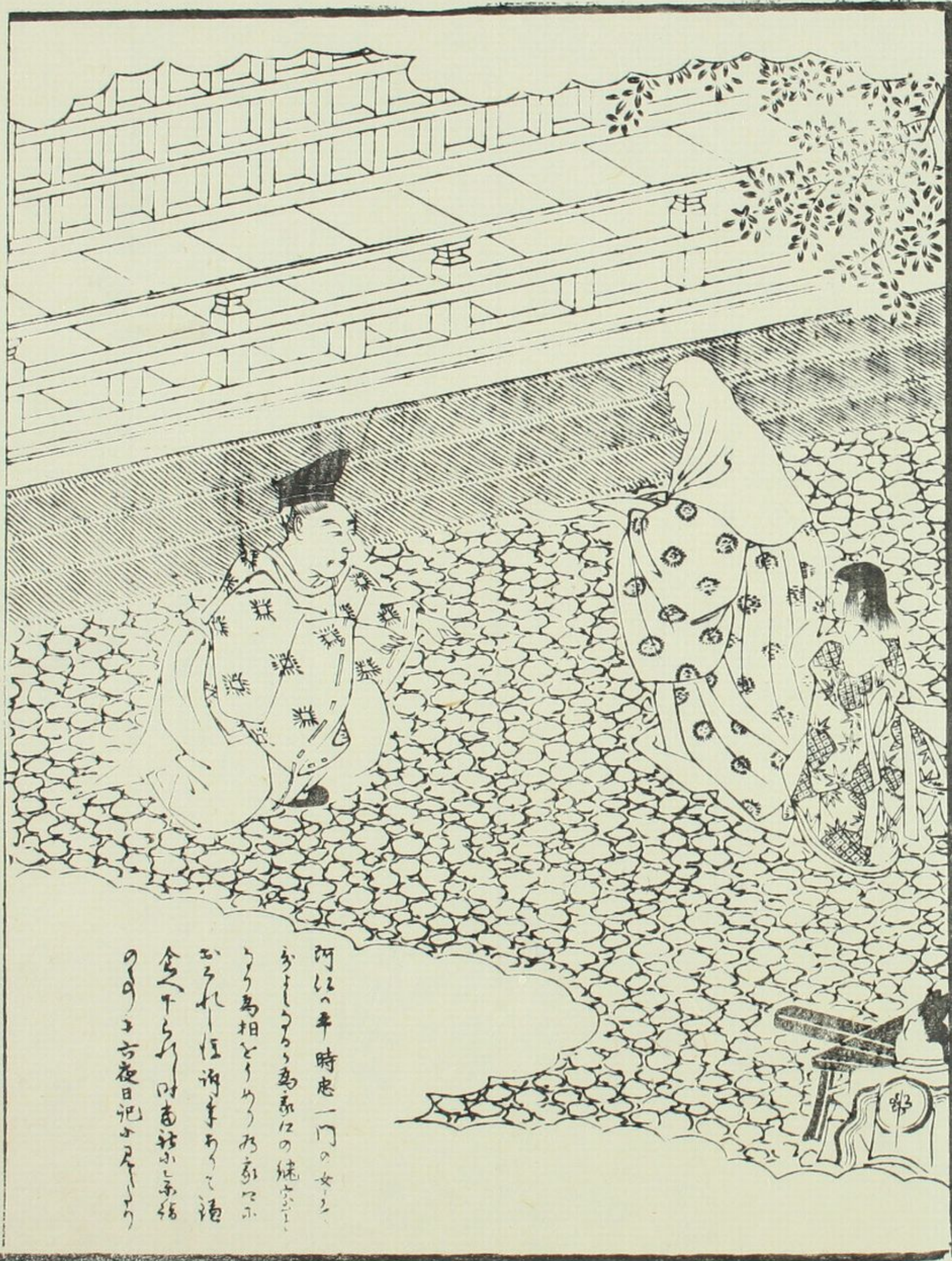
夫あ社の鎮坐八年歴久遠とて洋な所とて社説し神武天

皇三十三年癸巳三月三日松降莊青桃立 今の一の宮村あり 小御鎮坐ありとて

了折は御沐ハ天神七代のくどり百王太祖の國常立尊とて坐も

尊神常に天地の中小獨立て万物と化育ありふあり天御中王尊


も稱し奉りて天地のるせとて此清沐の灵徳小儀



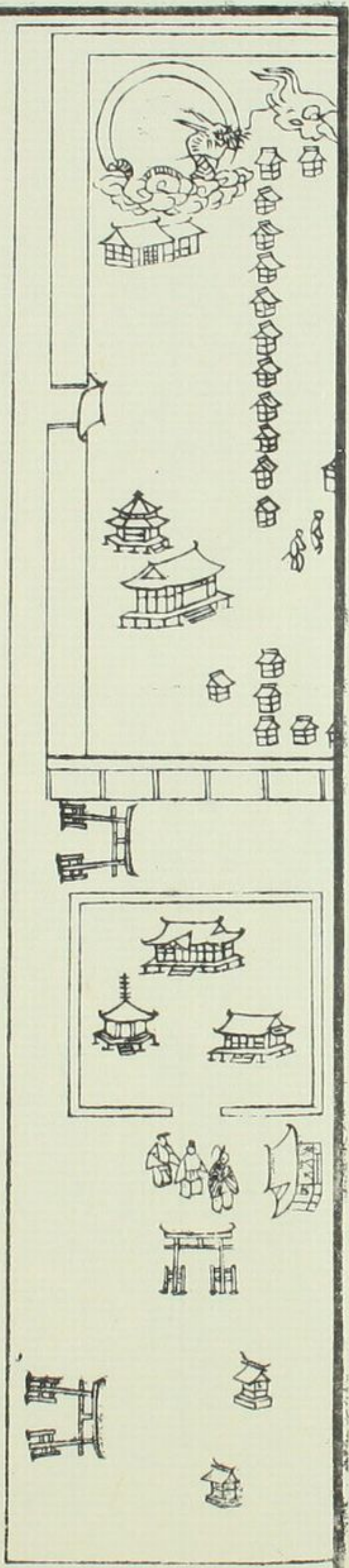
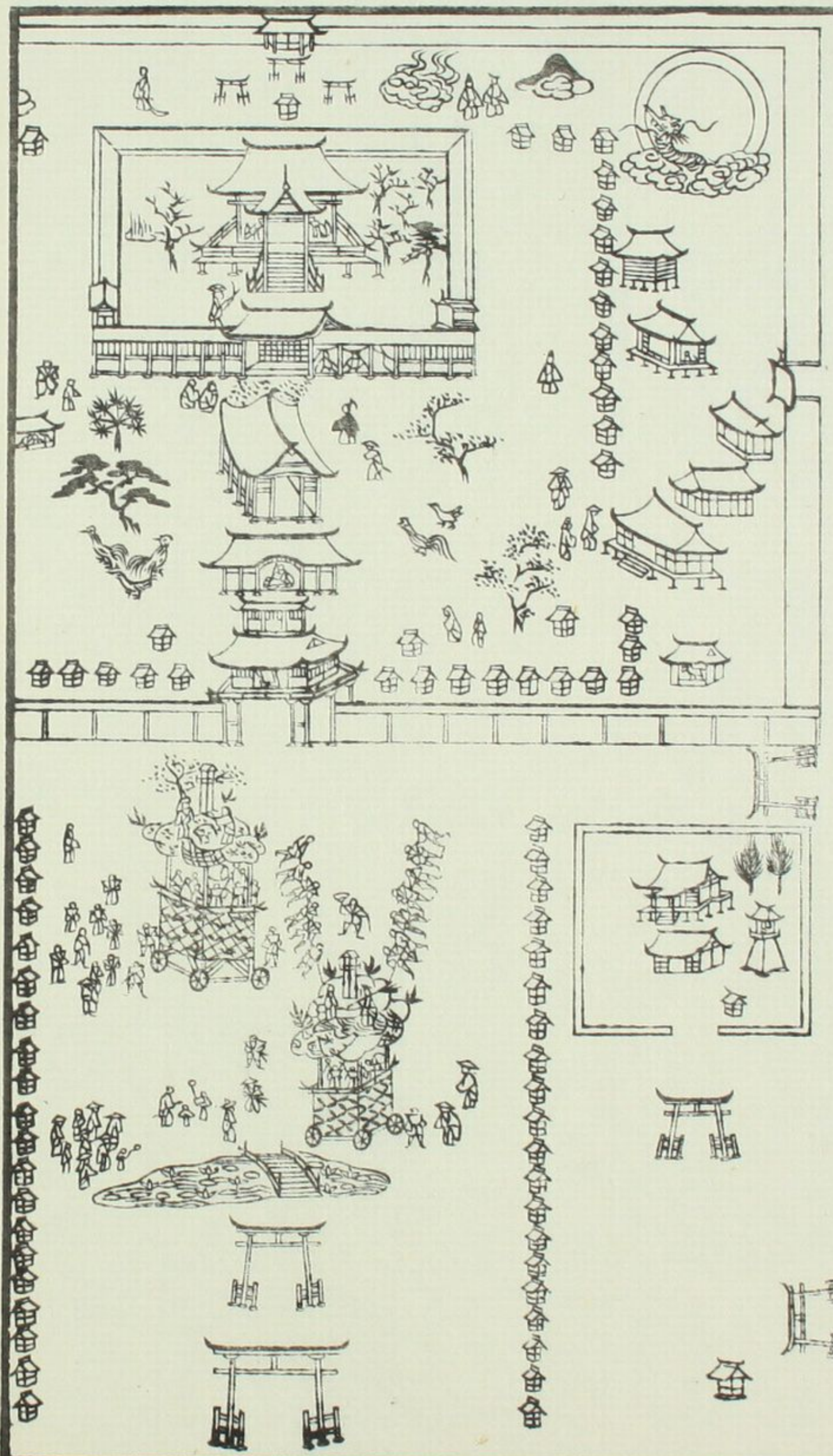
阿比の平時忠一門の女
 分りしうらら為系江の妹
 うらら為相とらうらら為系
 ぶられ恒海年ありて湯
 金下らけ時直新とあは
 のりま古夜日記に記す



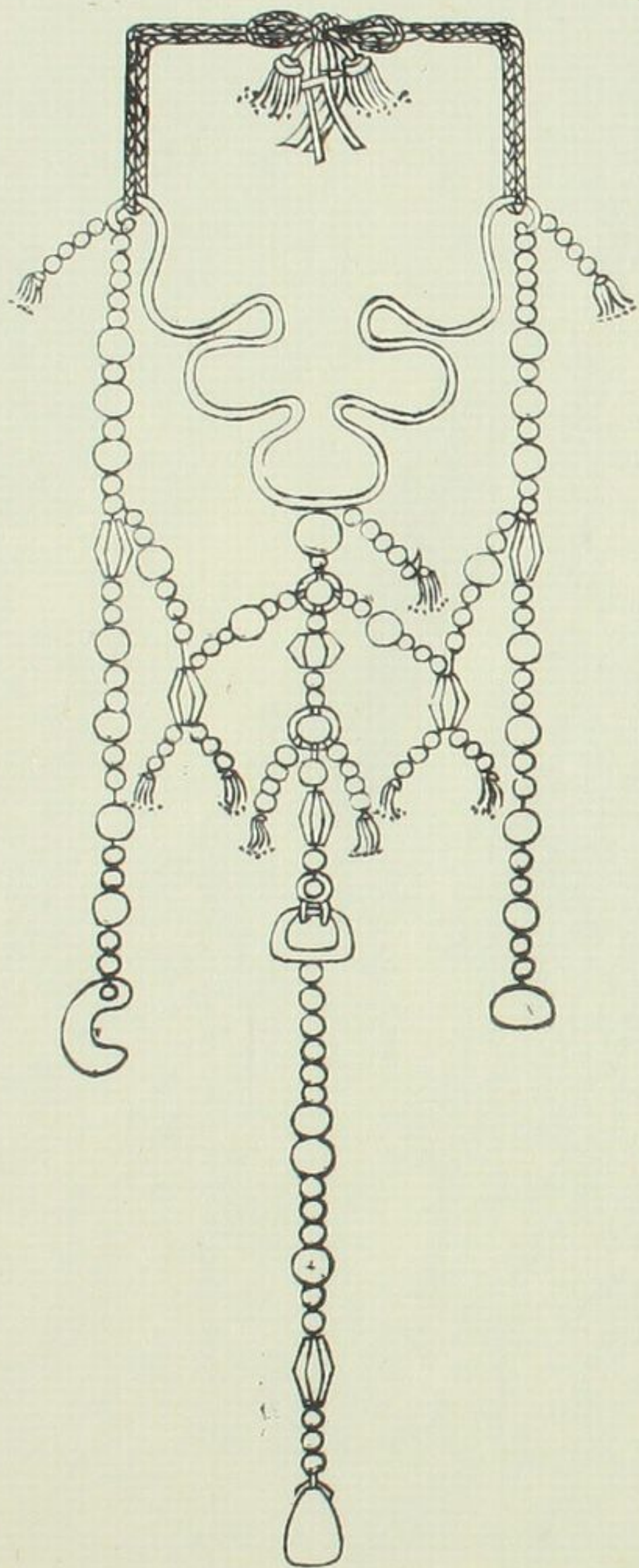
阿佛尼一宮の詣て
 和歌と奉る圖

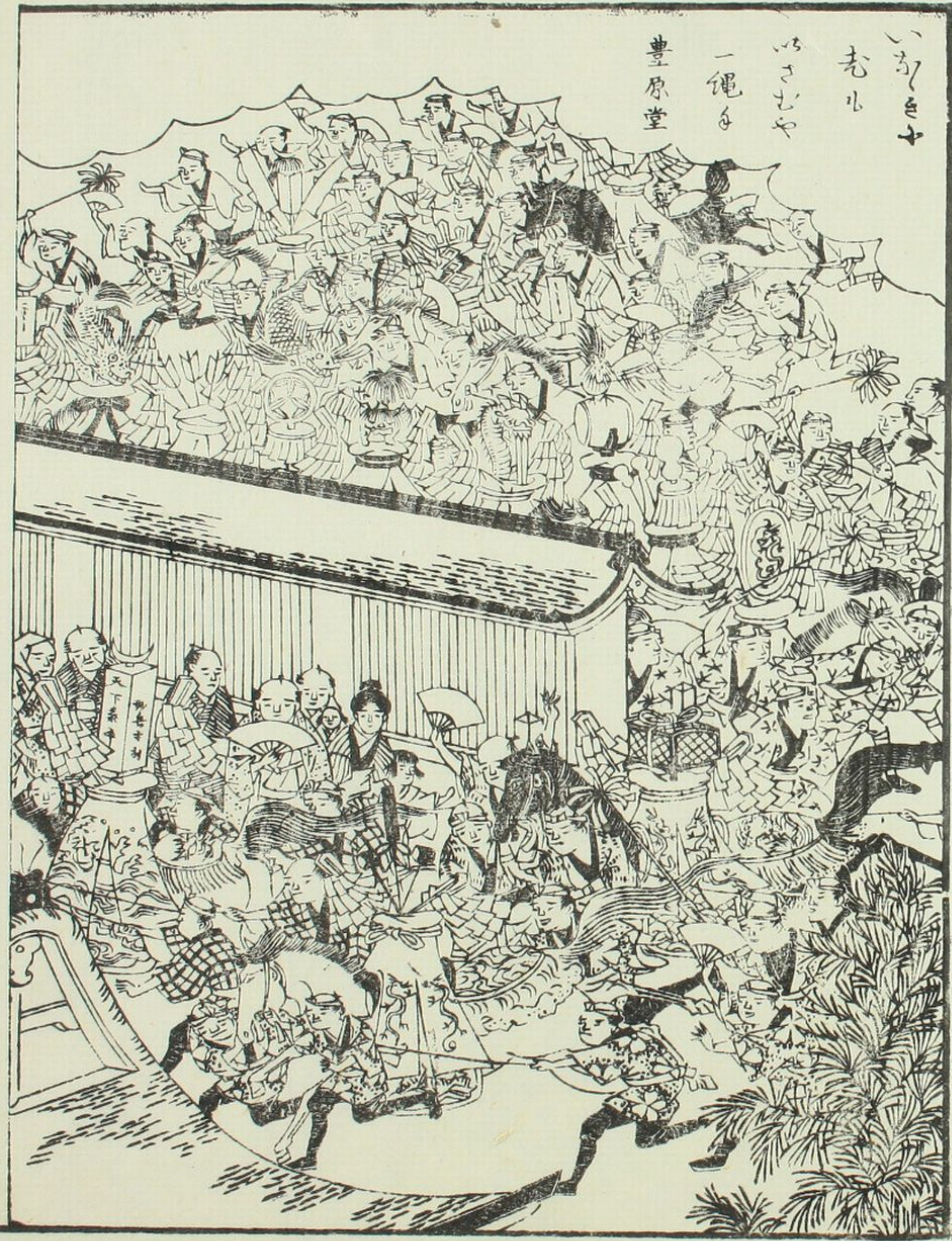
雅


一宮古圖



五百箇御統





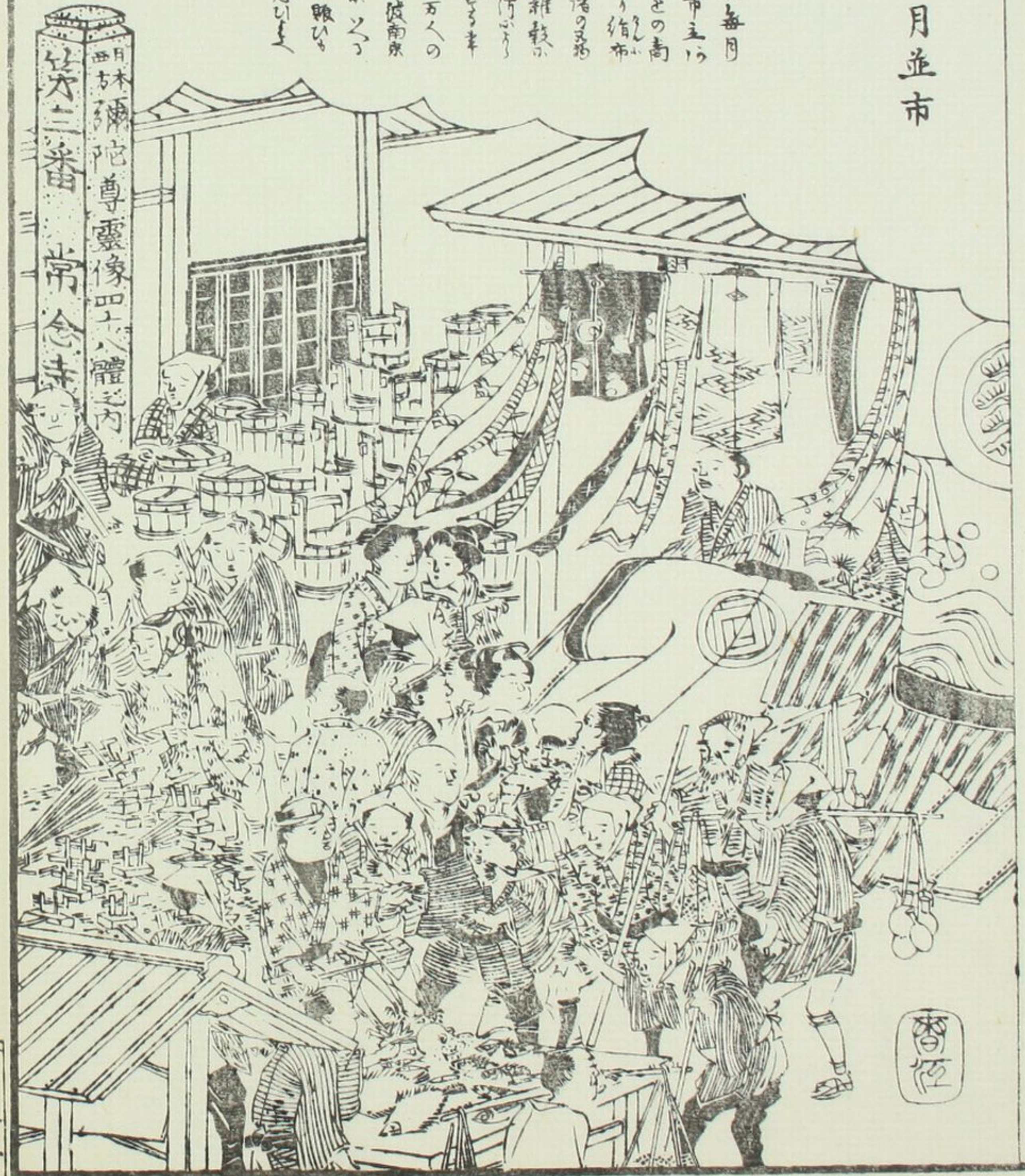
一ひり
老
心
一
豊原堂



一
馬之頭
喜酒
馬の
赤
喜酒

一宮月並市

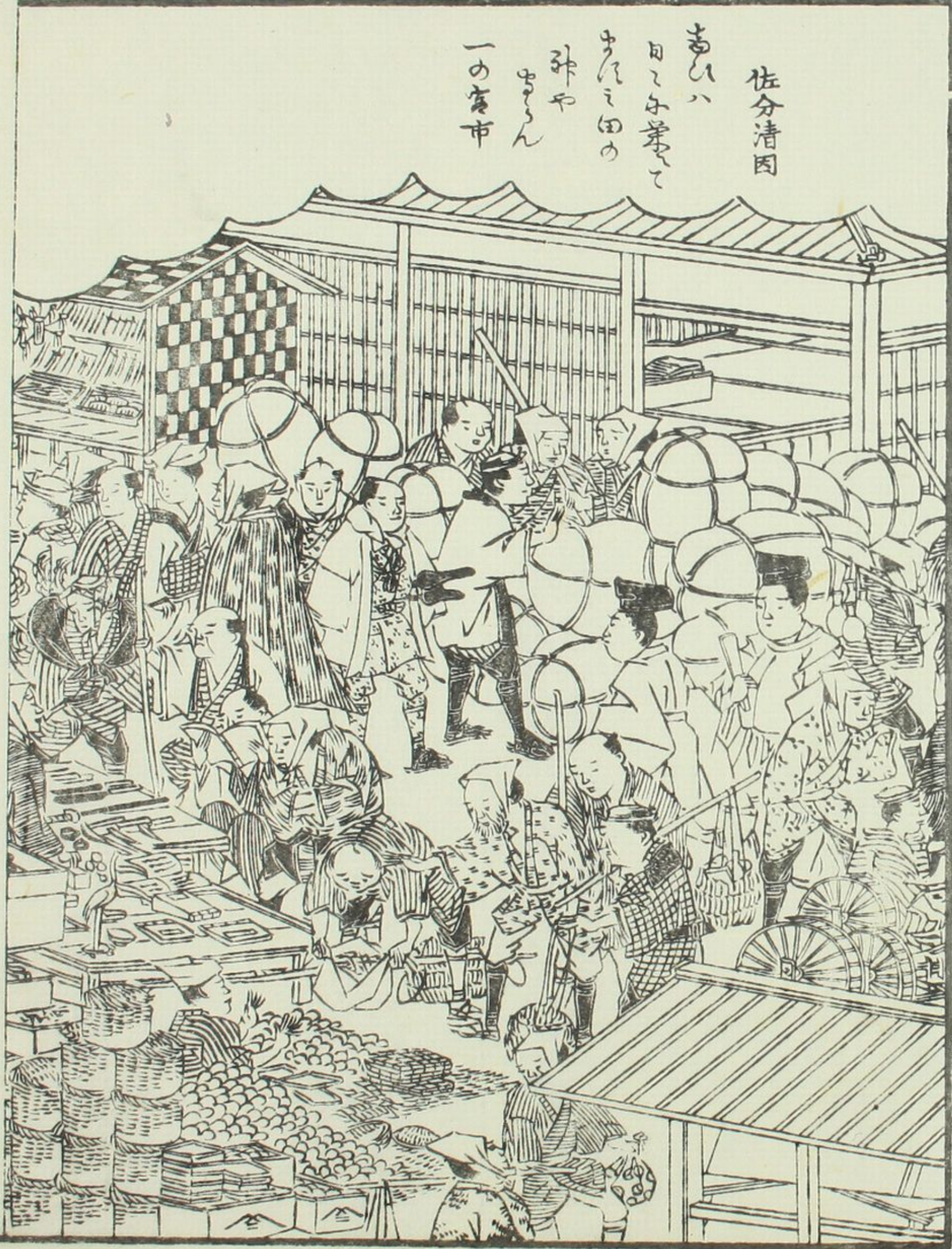
高所の毎月
三ハの市主ら
アノをその高
人等お供し給
とて一宮の又
及び物 雜較
おのまじり
が交易さる
夥しく数万人
のしんる波南
市肆記のつ
臨安府の賑い
わやと思は
る

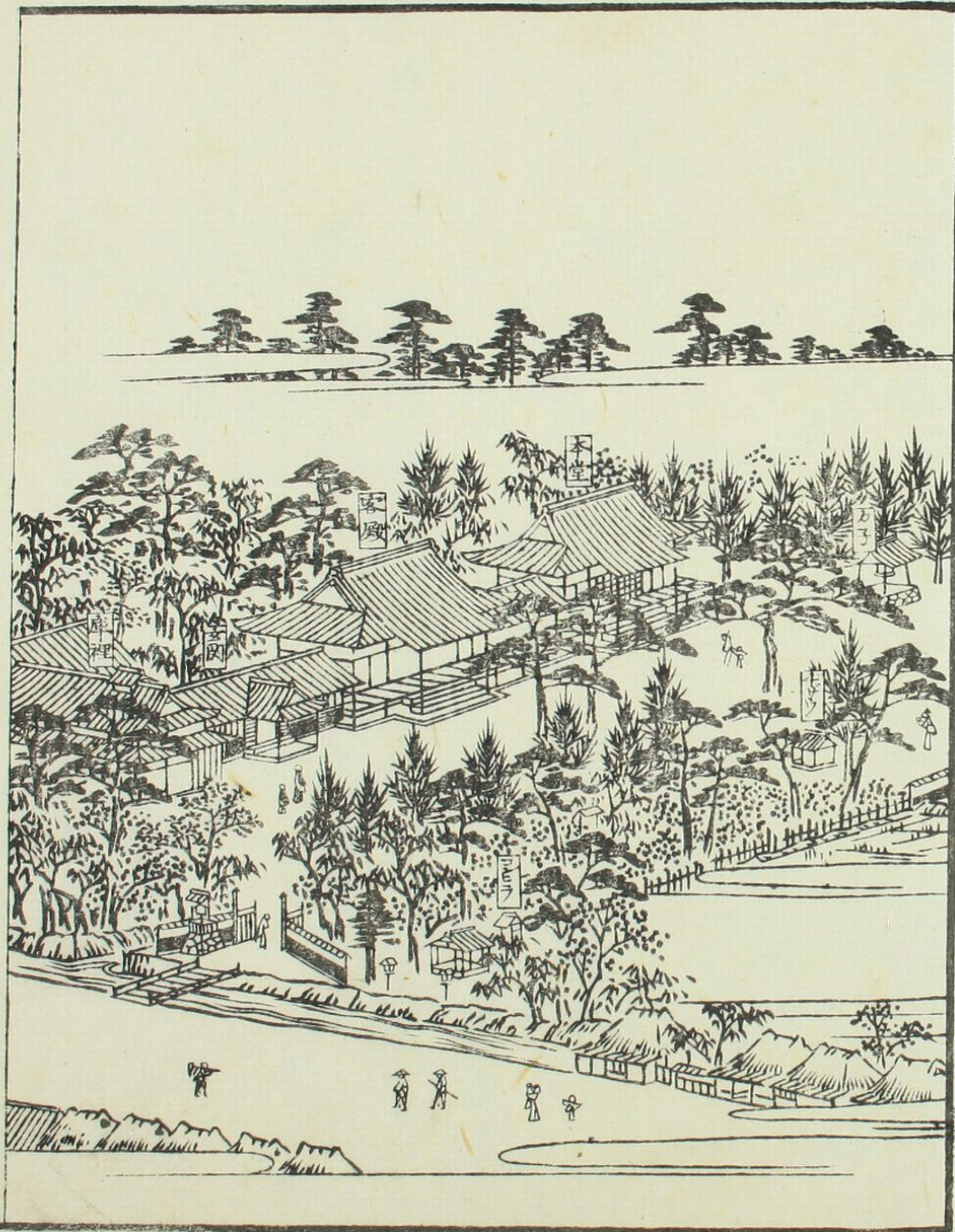


香煙

佐分清因

あひハ
日こみ葉て
中けい田の
孫や
おらん
一の宮市





一宮一鳥居
地藏寺



香印

別宮 大神神社 花祇天王社 濱神明社 社の東に流るり昔ハは流大ニテ潮満

大樹 神戶神明社 子守社 神王家及び社中の中 大國靈社 御供田社 更

屋敷社 齋宮社 貴船社 三石社 熊野社 山子社 淺間社 牛野社

東小島社 西小島社 印田社 白山社 四峯社 西郷寺社 境内の連 松尾

社 八王子社 八百萬社 天王社 其の田村の由

宝部山 竜花院 地藏寺 同村のり 真言宗 山城國記 報恩院 未 南古の神龜年中 行基菩薩

薩の開基として 龜古刹 中古火災小のり 荒

廢 弘長年中 空圓法師 無住 国師 道跡 考ふ云 師の字一四

上人も母姓 梶原氏 相州の人 其上 足空 上人 俗門の 螺 寺 本州 宮地 藏寺の

法印 隆真 寺傳 小のり 本尊 地藏菩薩の像 行基の作らる

福壽院 真言宗 南村 地蔵 未 文 永年中 空圓法師 所の開基 須賀崎 山 勝福寺 号一

本尊ハ十一面 觀音の像と安置 及びハ十坊あり 永祿 天正の以の 兵賊 地震 共に

衰廢 してハ一字の 砂 あり 冥宝 涅槃 像 非 典 司 華 弘法 大師 像 自 画 文 殊 菩薩 金 剛 華

大塚 権 左 夫 の 鎗 等 あり 康富 記 云 嘉吉 二年 九月 廿日 丁丑 晴 東 岩 藏 之 密 花 院 坊 主 寺 月

柳 星山 常念寺 同村のり 浄土宗 西山 池 前 飛保村 曼陀羅 寺 未 後 小松 帝 の 明德 元 庚午 年の

草創 開山 空選 名運 上人 空選 あり 真清 田 大神 小 治 で

一百日 通夜 して 浄土 の 教 と 弘通 して 地 と 授け たり 祈願 あり け

小 石 自 満 び 光 明 神 告 たり 汝 仏 法 奥 隆 の 志 あり 我 小 其

地 と 求 たり 殊 勝 たり 則 是 たり 東 山 に あり 我 地 あり 行 て 弘 教

たり 告 たり 時 小 天 より 星 三 体 たり たり たり 東 山 に

あり 空 選 感 喜 の 涙 頻 あり 東 北 の 方 へ 舟 け 小 山 島 中 に あり

柳 の 冥 本 小 三 尊 の 跡 階 新 向 たり 是 月 神 の あり たり 所 あり

あり 堂 塔 と 建 たり 本 寺 あり あり あり 柳 星 山 あり

あり 星 霜 と 経 たり 長 年 中 今 け 地 あり

撞 樓 近 正 徳 年 中 の 淺 あり 寺 宝 大 永 三 年 癸 巳 八 月 書 写 の 古 縁 起 西 山 国 師 未

上人 并 等 日 房 等 今日 令 下 向 尾 張 國 一 宮 給 未 廿 四 日 勝 福 寺 塔 供 養 也 為 導 師

等 月 上 人 披 請 招 云 彼 寺 供 養 之 表 白 并 諷 誦 事 依 所 望 康 富 草 進 之 云 云

西方 四十八 願 所 あり 三 番 札 所 あり 委 あり 善 善 等

專 阿 方 西 方 四 十 八 願 本 堂 本 寺 阿 彌 陀 主 像 佛 教 大 師 作 たり あり あり あり

所 縁 起 あり あり 本 堂 服 土 衣 あり あり 觀 音 堂 安 臣 衣 あり あり あり

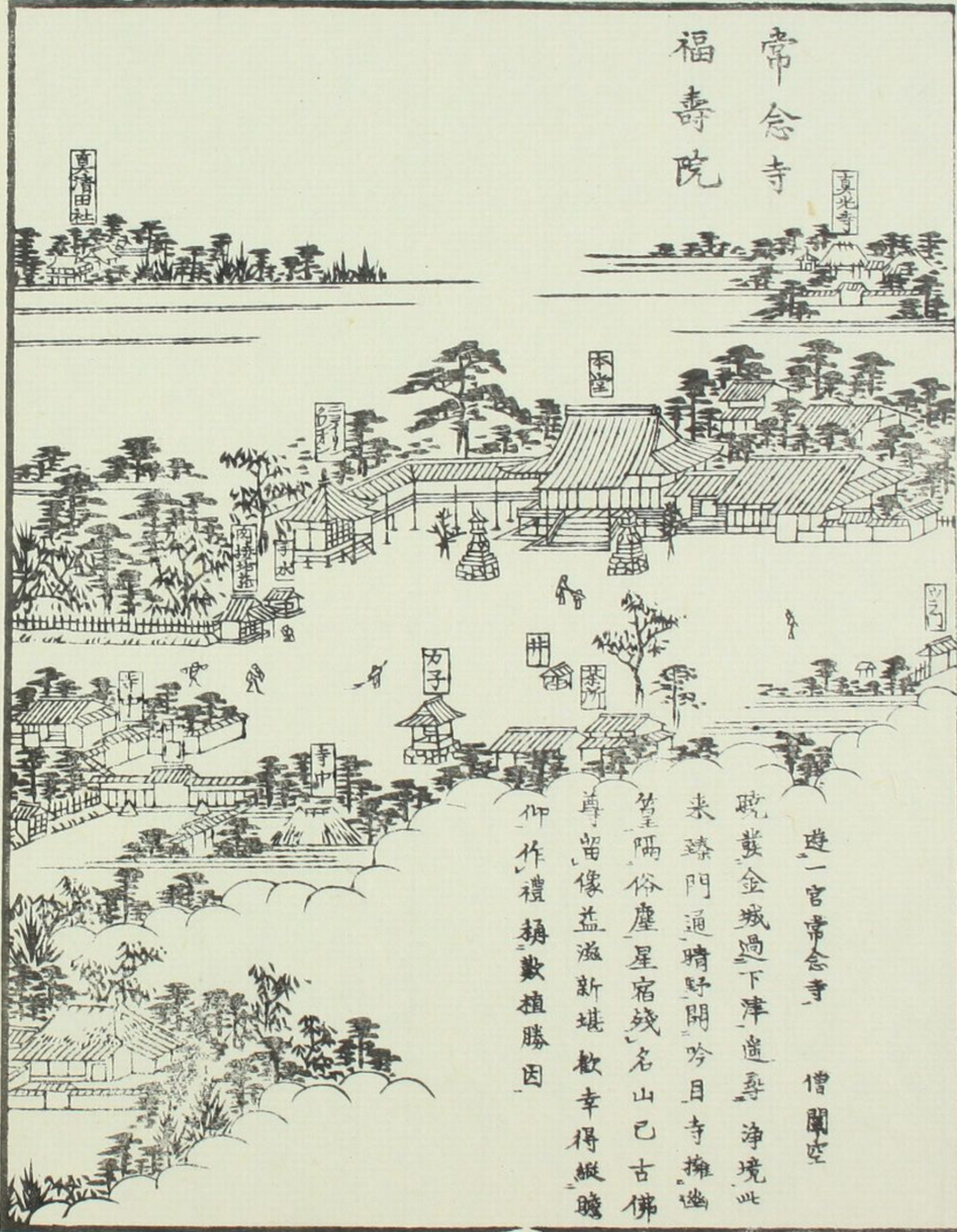
撞 樓 近 正 徳 年 中 の 淺 あり 寺 宝 大 永 三 年 癸 巳 八 月 書 写 の 古 縁 起 西 山 国 師 未

の 浄 土 曼 陀 羅 國 祖 君 御 筆 菊 菴 の 二 字



御旗竿藪
御殿跡

つらねはもと
かきつねは其の
まはりにあり
長くあふく
佐分清因



常念寺
福寿院

遊一官常念寺 僧闍空
曉奠金城過下津造尋淨境此
未臻門通晴野開吟日寺擁幽
篁隔俗塵星宿殘名山已古佛
尊留像益滋新堪歡幸得縱瞻
仰作禮稱數植勝因



香

天道社
日待の圖

香

か

ひ

ふ

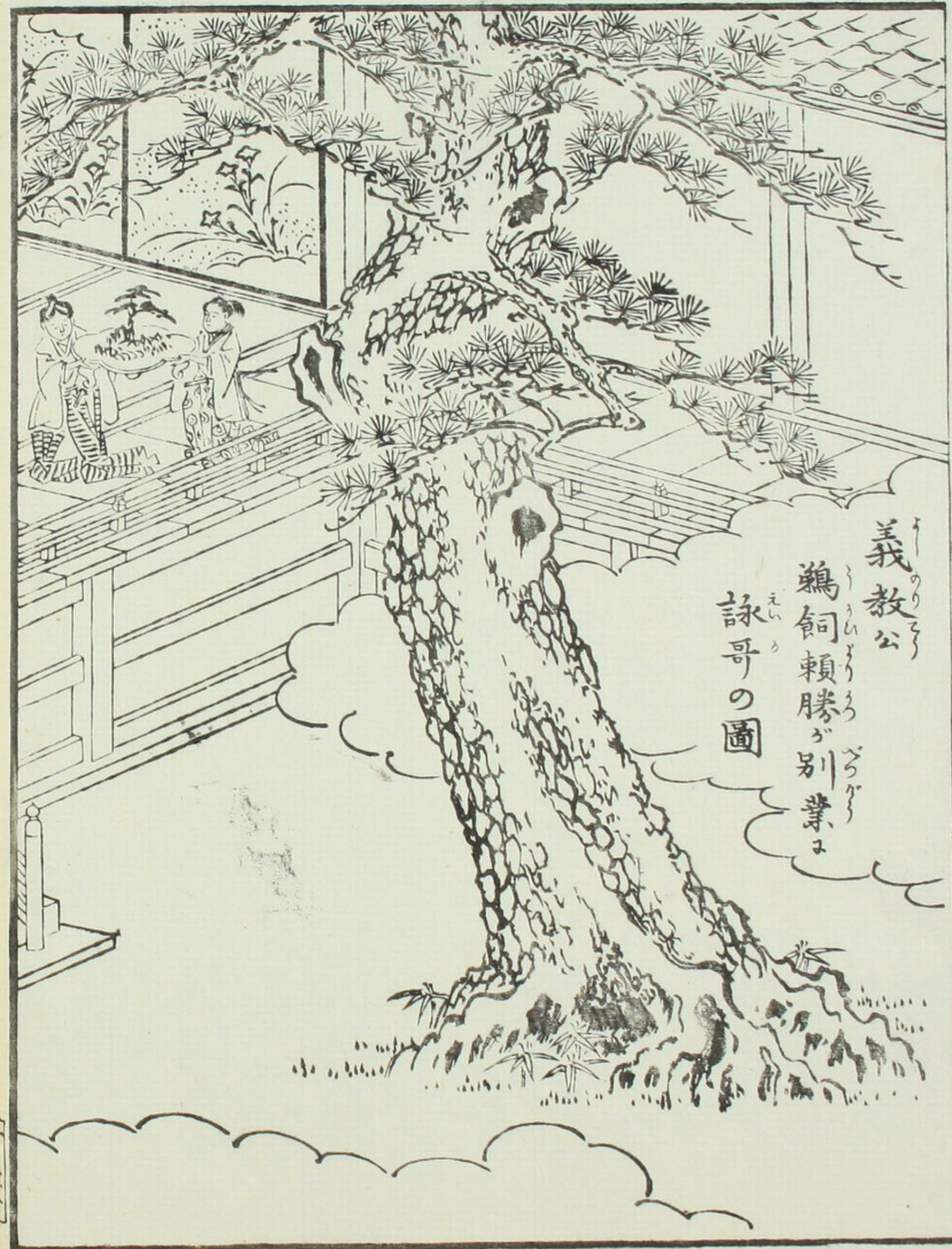
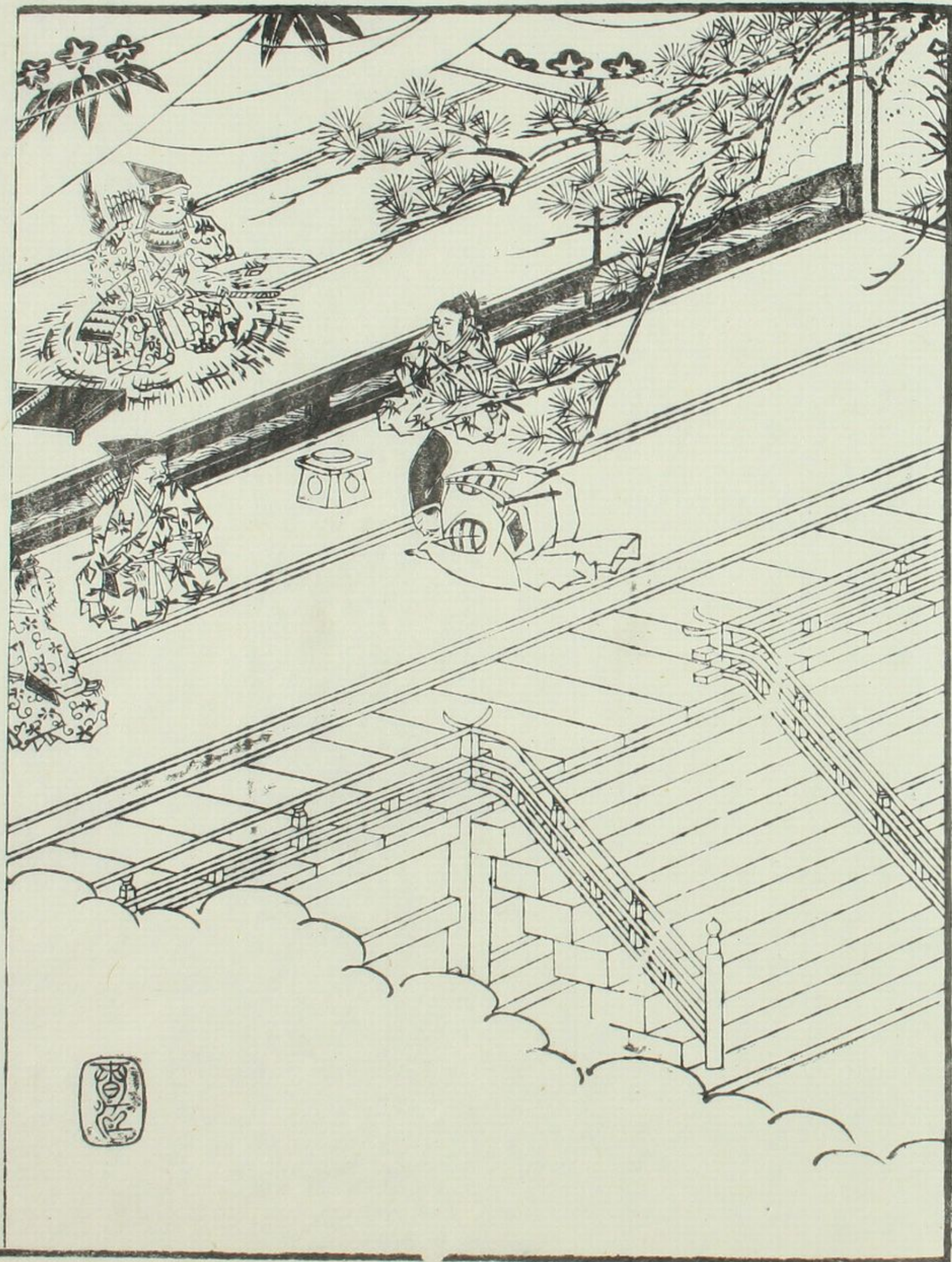
ら

し

天

日





義教公
 鶏飼頼勝が別業
 詠哥の圖

紅受村よりわす西の橋巴ハ
 名古名三の凡れ汗殿とト
 うなま方のいぢやの杉橋
 樹を以て家業に依りて
 人々の誇まおまの口で願
 風流の妙業をり

玉溪



類題士朗漫筆集
 橋川の橋

くらさり

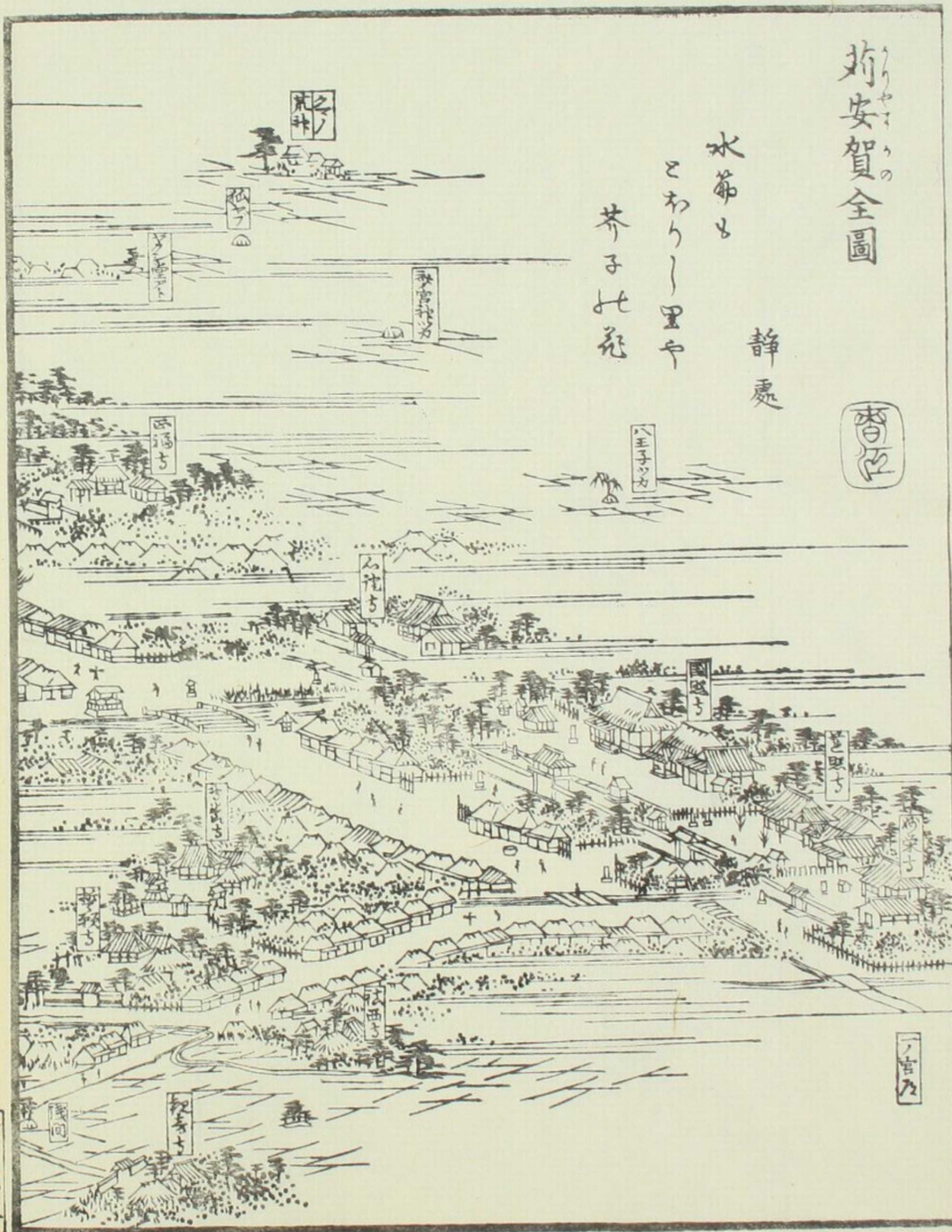
柳丸

士朗





通る舟は
 必照寺
 如翠



阿賀全圖

水第
 とわりー里
 芥子花



名古屋

夫より猶余に在りて年數積り學業うりて後ふふ小ゆり四十二等
中て貞和四年當寺と創建は其外所々に八宇の梵刹と建立し
又近江尾張駿河の三ヶ國に接待院と開きし雲水の僧と養育り
或時熱田ふとま泊し神社の荒廢しつとをわたりし修治と加一破換と
廻覆りりしは社家好びて熱田の社領のち中島郡鈴置郷今の
村と妙興寺小寄附ありし其時の大官司の定状今に寺宝とし
又大神の祀宜と慕ひて大官司常端より梅樹十株と當ちに
坊に境内小柱をとり一宇の坊と建て十梅院と号し今の用山
塔とし
これわけて早きおと居るまに其樹多く枯槁し今も二株の
こまり希代の古梅あり又じり弘法大師熱田社と修復ありし時
社人示しけり七百年の後まぬく修造より傳わたり其名と
興し又興し弘法り則我再誕なりといふ年より寺記ふより又
一宮村比叢るにむし親勝といふ傳わりし智行正し法行と

常に宗祖弘法大師とまひりたり或時靜庵親念し居けるに忽ち
神童一人來りて告りし汝もいざや今も此大師なりとて給り
出り拜ふしし親勝走り出て見ると大照禪師なり親勝わ
やして大師のまゝなりし神童禪師とて是をて給ふ
親勝いそ是大師のわらふ妙興寺の威宗うりし神童又言て興
し弘法といふなりしやといひ給りて消しせり地蔵寺の傳記
も弘法といふなり興し禪師の實名宗興といひ弘法大師の謚
いそしめりしはわらふまゝなりし傳記ありて是の傳記のみ
和尚寺院興隆の切元來りて京師難波有馬小松比又九州筑
前寺に周應といふ名譽と給りて永徳二年壬戌七月十日年七十
三して示寂し圓光大照禪師と謚し妻も傳し享徳二年無徳徳吾
和尚著す所の圓光大照禪師行
狀又本朝に傳傳延室傳傳縁
扶桑禪林傳室傳傳縁

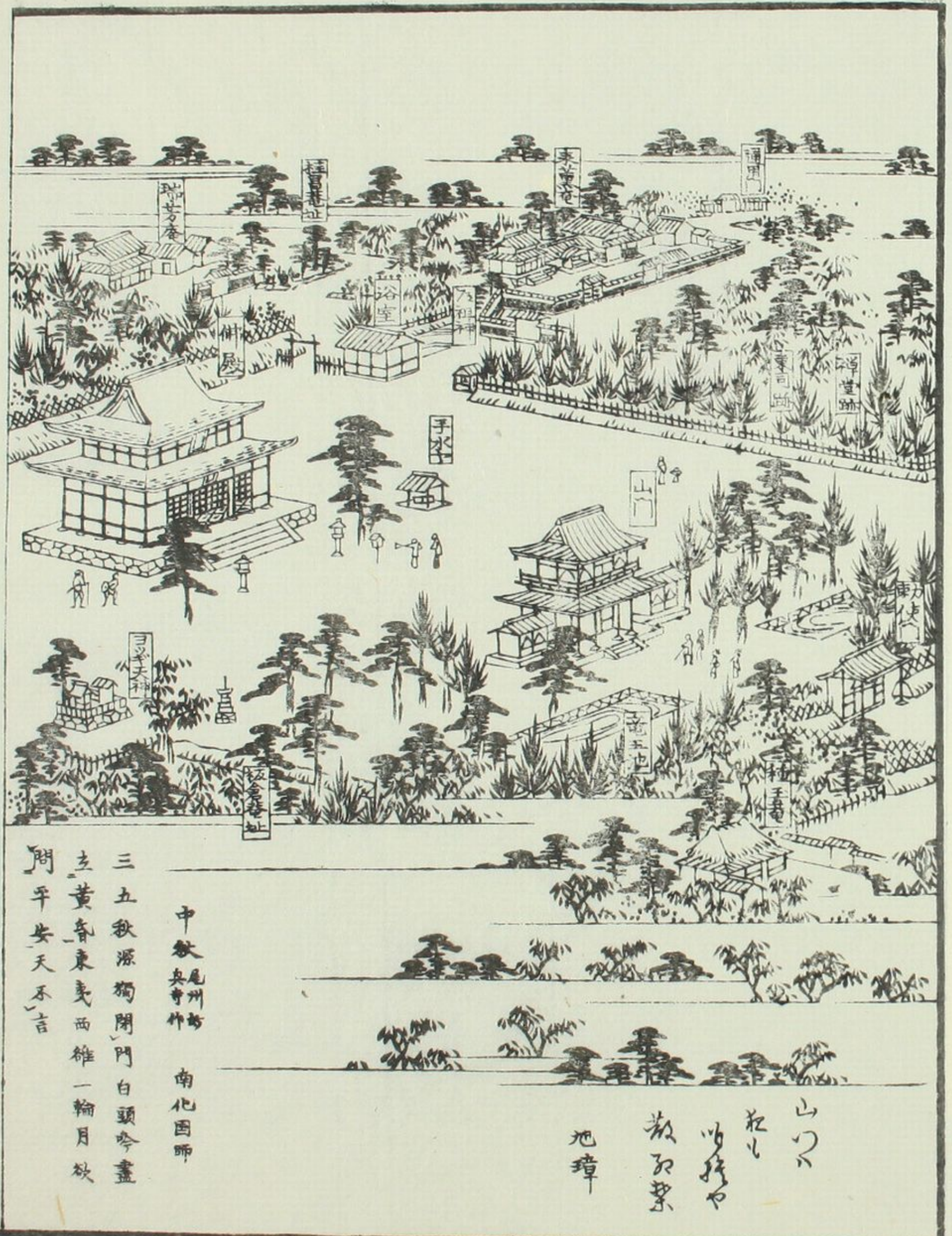
南寺の世小勝といふ津城にて代々の輪旨院

妙興寺



蓬島話洛
尾之妙興寺
會住持訖慶甫
正月廿七日
高里居士
梅華共不戒
豐葦原鄉阿
每東春雲捧
出碧羅宮滿
身餘習鶴應
罵十梅花前
九洛中

西



中教尾州
南化園師
三五秋源獨閉門白頭參盡
立黃昏東夷西維一輪月皎
問平安天不言

山つゝ
花も
ゆきや
散り葉
地璋

其二

尾陽妙興禪
寺者為叢林
固久矣在去
府城三十里
西北春日泉
真與二三子
蛙步遊法苑
三日及歸賦
一絕云

清水春流

錦處集
覺城從來冠

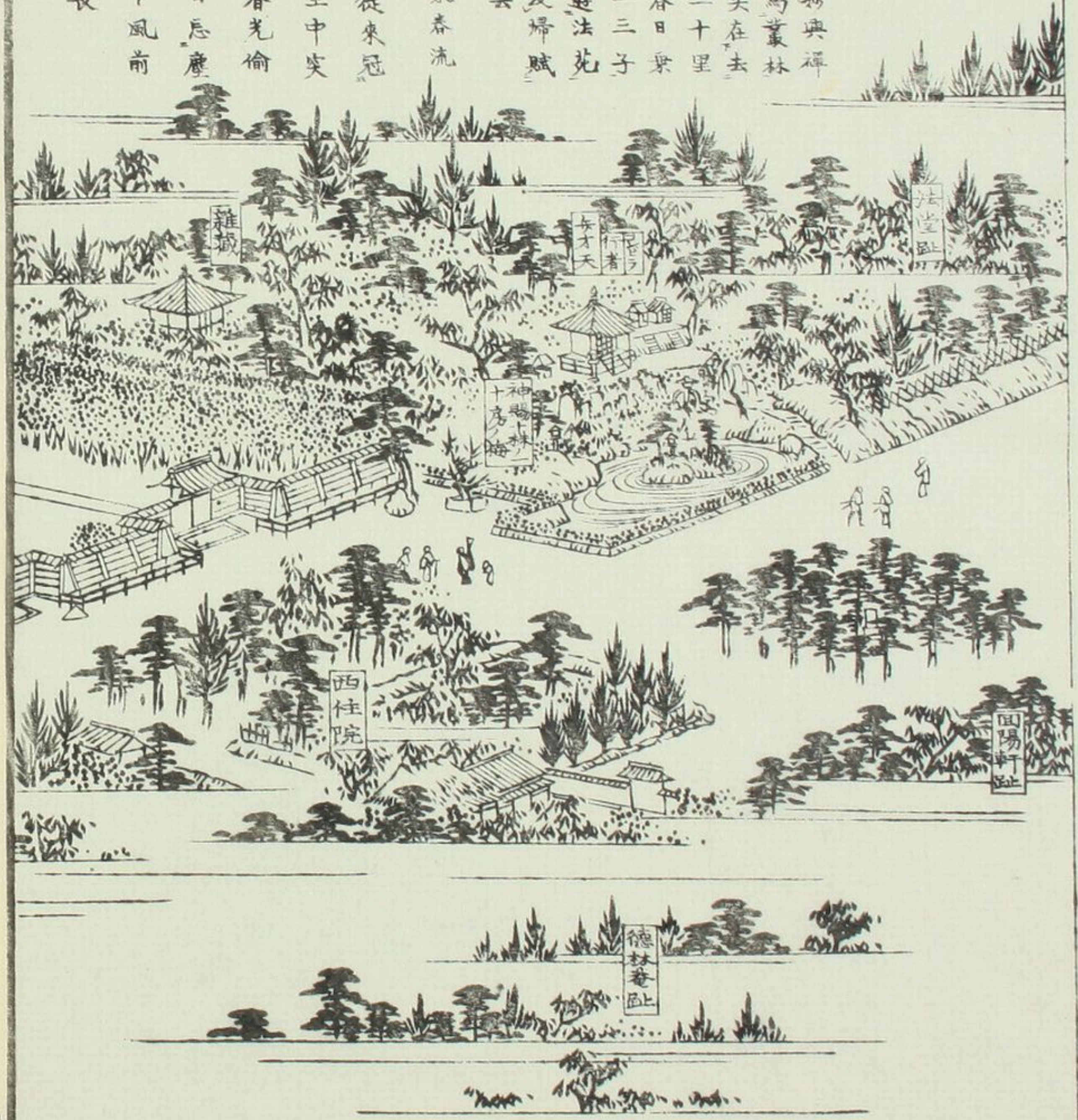
尾陽空中笑

兀對春光偷

關今日忘塵

俗羊下風前

吟興長



遊妙興寺本
賦

松平君山

國中形勝地

禪刹本無雙

佛果誰應證

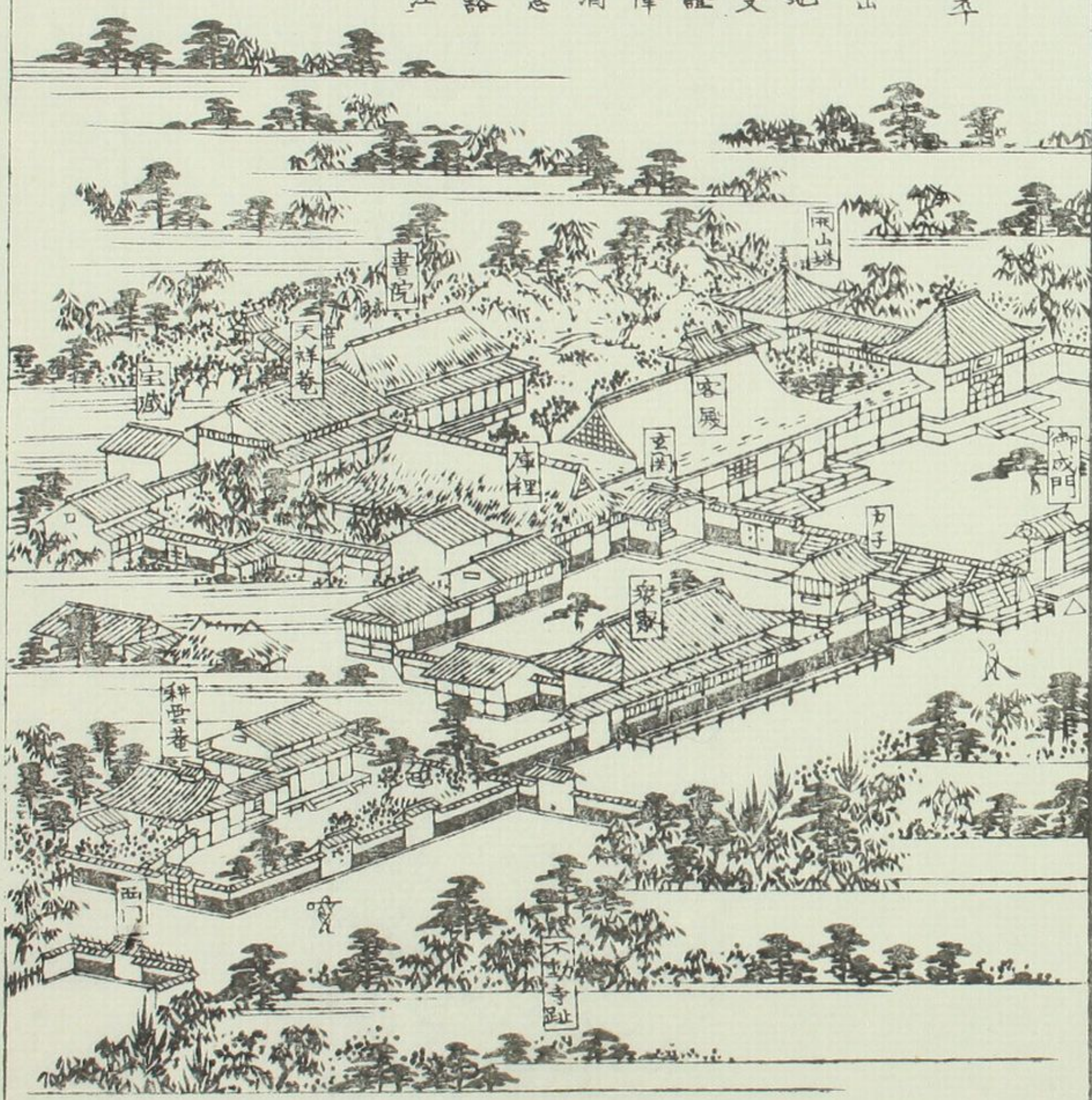
詞壇我欲降

逍遙須縱酒

解脫豈鎖窓

胸次終開豁

何妨吞大江



宣淑教書御朱印御黒印諸陀文等今に教通とる他
又文和二年癸巳年將軍足利尊氏公 勅と奉じて國中無
双禪刹の額と賜ひ永享四年壬子年足利義教公富士御
覽の序もまゝ帰駕と交らるる半日澤庵わけて妙興報恩
禪寺の台華と添へりて旧寺領に復し安堵の御教書と
なるといふれが大檀那と稱し公の肖像と書き京都鹿苑寺瑞溪
和尚の没と加へて今小むらまゝ供養しあり又日本名畫圖
小も尾州第一勝藍妙興報恩禪寺と名居し續羣書類従小
妙興報恩寺記とのせむ世にわたりて久し國中無双の禪刹なり
○佛殿 南面して覺皇室殿と号し敬裡か其額とあり本尊釈迦如來服主普賢
と安坐り妙興報恩禪寺の額ハ普廣院義教將軍の台華なり應永年中火
災小堂塔多く燬れしむはきりてしりて再建上棟の棟札ありて應永
二十九年壬寅十月十五日と記しありお供入の堂ハ行田の番匠が作らんとしありん他小
吳の是くして凡人の修所なり堂内はちの須弥壇檀干の彫刻を結構あり
齋堂の長よりなり足利よりて造らるる 開山塔 南面大庭園師大照禪師の二
像と安坐り又十梅院と号し

契回大宮司十株の樹今も庭にあり又後院号とあり又後院号とあり
閏二月廿八日小師 客殿 十梅院の西にありて南面大庭園の可菴
宗語謹志とあり 衆寮 其跡にや開山在世の時二百餘人の居宿
をなれり 惣門 外門なり 勅使門 中門とあり 山門
寺記にあり 勅賜國中無双禪刹とあり 長島山の額とあり
又又公殿とあり 創建より年月とあり 閏も改壞し樹礎ありて
みらるるむらとありのまゝありとありて今れがくつ造り
鐘樓 云圓の前あり 浄の落小尾張國中島郡長島山妙興報恩禪寺大鐘額主
基比丘宗興住持比丘善一とあり 因所ハ天祥菴の鐘もわけてありて
次享徳二稔龍集癸酉孟秋日守塔比丘德吉誌焉 因所小豆木の被とあり
て古物 警觀音堂 寺堂より足利尊氏公の念持佛なり 近頃頃 住吉社 辨
財天社 天神社 世傳天陽宮と稱す太宰府花柳の小枝と 靈寶 涅槃像
聖一丈八尺横一丈二尺の大幅の繪地あり 京都泉涌寺の開山俊祐國師宋國より持來
る所あり 裏書ハ去應仁大亂當寺回録之刻此尊像紛失處八幡郷内從一位町長谷川
道慶入道為現當二世六親眷屬以過分財錢令買得 觀音竜虎三幅對 牧溪和
奉寄附者也于時文明十戊戌年二月十五日とあり 大嶺藥山圖二幅 牧溪
畫幅ハ徑一丈 因祖若御覽ありて其まゝ清浄小飾り 閑極法雲和尚墨跡 維
筆りてあり 其ハ五幅對 鷲畫 玉碯 墨梅 楊補之 閑極法雲和尚墨跡 維

摩居士贊 石林和 趙子昂書 張瑞圖書 人物圖 趙千 墨梅 雪崖 山水

唐寅 唐畫 虛堂肖像 者不詳 人物芭蕉松兔三幅對 明梅 四天王像四幅 唐畫

不詳十六羅漢像十六幅 上同 十六善神 上同 拾得圖 然可翁兩妙 觀音大

士像 然可翁畫廣 不動尊像 妙澤和 白衣觀音像 北殿 神仙圖 上同

山水 周文 同 雪舟 三聖人圖 上同 福祿壽童三幅對 雪村 叙迦文殊普賢

三幅對 啓書 蓮鷺圖二幅對 相阿 鷹圖 萬里居 竹雉子圖 足利義純

張果良圖 永德 義教公肖像 筆者不詳 秀吉公肖像 南化國師贊 四聖

圖 快川國 夢窓國師墨跡 寧一山墨跡 大燈國師墨跡 大應國師

墨跡 大照禪師墨跡 維摩居士讚 無住國 一休和尚墨跡 春溪和尚

墨跡 古劍和尚墨蹟 笑隱和尚墨蹟 天隱和尚墨蹟 悟溪和尚

墨跡 特芳和尚墨蹟 慶甫二字 九洲和 諸山疏 策彦和 關山行狀

記 附 妙真寺記 無隱德吾 尊氏公手蹟 觀應三年六月 秀吉公自詠

和歌 自 後醍醐天皇末寺圓光寺境内安堵繪 元弘三年 後光嚴

帝境内安堵繪 文和元年十一月九日 同寺領安堵繪 貞治五年 同熱

田院宣 貞治四年 伏見帝熱田院宣 永仁六年九月一日 院宣繪 貞治五年

久我内大臣通相公境内寄進狀 延文四年二月卅日 同五年閏四

足利義詮公寺跡御教書 文和二年 同安堵御教書 貞治三年

尊氏公安堵御教書 文和三年三月廿八日 同末寺圓光寺境内安堵御教

書 建武三年 義持公安堵御教書 應永十八年 義量公安堵御教書

應永卅二年 義教公安堵御教書 永享二年 義勝公安堵御教書 文安

八月 義政公安堵御教書 長祿二年 義尚公安堵御教書 長享元年

植公安堵御教書 永正八年 高階師貞證文 曆應二年 細川武藏守

賴之證文 明德二年 細川勝元證文 長祿二年四月二日 斯波左兵衛義廉

同三年四月十一日

證文 長祿四年 織田出雲守常竹證文 應永十一年 同伊勢守常松證文

文 應永十五年 同達勝證文 永正十三年 斯波左兵衛督義淳制札 應永十二年 同

卅年九月 織田大和守制札 嘉吉三年 同紀伊守廣遠制札 延德二年 同

五郎制札 文龜三年十一月日外家翰より將軍家の御教書武家方の寄進状澄文制札等數百通掛物巻物とてち付りてを秘の古書十ヶ

一と次下 寄進状 嘉曆二年十一月廿五日散位宗顯 貞和三年九月三日宗顯 同五年三月二日 散位長利 同六年十月廿五日藤原清重 同年三月二日宗竺 觀應

元年七月十日高階泰隆 延文四年三月二日顯西 貞治二年七月五日泰隆 應安四年 同十一月十八日沙弥宗天 同三年四月十五日僧宗賢 嘉慶元年十一月十五日沙弥宗覺

應永十二年十月十五日直盛 同十六年八月廿二日沙弥宗直 同十八年八月廿二日宗源祥 同十九年五月十三日與元 同廿三年十二月廿三日岩間守清 同廿六年卯月十四日

了阿 永享元年十月廿日藤原久親 長祿二年四月七日元行 明應五年 讓渡状 元應二年四月三日沙弥兼念 元弘二年八月九日尾張齊俊 嘉曆二年二月廿四日沙弥辨

覺 正中三年八月廿日家賢 曆應二年七月五日沙弥善覺 貞和元年十二月八日女行 應永九年十月十六日沙弥常竹 同十年正月十一日良闍 賣渡状 弘安五年五月廿九日沙

同廿一年十二月十三日性秀 嘉吉三年三月四日全瑞 同廿三年十二月廿日藤原泰經 應永十 月十三日尾張宣俊 元弘二年正月十一日尾張齊俊 元德三年十二月廿日藤原泰經 應永十

六年十月廿三日長明 同十八年十月三日信德 同十九年十一月廿五日善弥六入道善秀 同廿 五年十二月十三日善政 同廿七年極月十七日牛太郎同後室 永享 沽却状 貞和五年

二年十一月廿四日勝福寺住日海已下三人 康正元年十月三日宗文 沽却状 三月十日 沙弥覺兼 觀應元年十月八日源祐俊 康安二年二月三日源清貞 貞治五年五月三日泰

隆 同六年九月廿六日高階經久左京亮直經 明德五年十月十日安義已下三人 應永二年十月

十三日長徳 同十年二月十八日景演 同十一年十月十五日宗直 同十七年八月廿二日龍吉 同十九

年二月九日沙弥性秀沙弥宗直 同廿五年十一月四日宗了 同廿六年十月一日令精 永享

十一年十二月三十日 沽券状 貞和二年閏九月十三日宗顯 康安二年三月十日泰隆 應永六

年十月廿三日安久將監安嘉 同十四年正月十一日安吉 契約状 貞治二年十二月十三日能親 坪付注文 文和五

年十月廿三日安久將監安嘉 同十四年正月十一日安吉 契約状 貞治二年十二月十三日能親 坪付注文 文和五

十日沙弥證覺 應安 放券状 觀應二年四月廿三日宗顯 貞治四年 賣券状 應永

三年八月日沙弥宗天 六月廿七日泰隆 應安二年二月音宗天 執達状 永正十三年十二月一日織

九年十月廿日信徳 同廿五年十月十五日宗策 執達状 田彈正忠同筑前守同 九

年十月廿日信徳 同廿五年十月十五日宗策 執達状 田彈正忠同筑前守同 九

即 興證状 永享十一年十一月廿日久親 書状 應永二年八月廿八日法眼長圓 同五

常松 同廿五年十二月十三日大徳代 室徳四年三月廿四日坂井入道 長祿二年十二月廿

四日貞基之清 文明五年六月十一日敏廣 長享元年十二月廿三日長秀元定 明應六年

十一月十二日林九郎 同十年正月十三日与三太夫吉房 同八年十月十九日寛廣 永正十

三年極月七日定次 同十四年十二月七日前野廣久 大永六年八月廿七日連勝 天文二年

十二月廿六日織田彈正忠信秀 同六年五月 此外織田氏の古書百とてりて

又武田信玄の書簡狩也七郎 友原久親 遠藤三郎宗次とてりて勢

田大宮司家の人々荒尾民部少輔宗頭二宮備中守入道省忠等

歴々の武家等のの流儀流儀小多々として海内の古證文ハハに及

器財の類 牌 四枚 坐禪放參祈禱嚴淨の八字 點茶點湯 共一宋國無準和尚筆

牌張即普田向浴佛偈二枚同 聯趙子昂 額清の一字 同上堂の二字 大

應國師袈裟一 大照禪師袈裟一 南化國師袈裟一 秀吉公御膳三枚 阿古御寄附

陀鑪子中島藏 中央唐製慶南 同和尙寄附 香合大小二具大 寶鈴三枚 阿古製沉金

彫蓼花鏡湖州孫家作 南京淨瓶一對大照禪師所持 香合大小二具大 寶鈴三枚 阿古製沉金

法磬朝鮮製 鈴南蠻製 獅子香爐交趾製 屏風一雙古法 同土佐將 衣桁吉秀

公柳稀世の古物 大應國師塔銘銘文とたに 好古家

勅諭大日本國 大應國師塔銘銘文とたに 好古家

圓杭通大應國 師塔銘銘文とたに 好古家

資慶元路金鵝 山竺天曆萬壽 永祚禪寺住持 密詣伯琦 隆琦 書

圓資善大夫 江浙等處 相禪寺住持 沙門釋密 詣伯琦 隆琦 書

傳悟之 道支而為 一處行中 書省左 門釋密 詣伯琦 隆琦 書

愚得松源岳 而為一 傳而為 運庵岩 再傳 而為 隆琦 書

師也建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

戒本建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

事依建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

虛堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

謁堂建師 諱紹明 字南浦 駿州 安部 縣人 出通 大應 國堂

主巨福山建長興國禪寺明年春有曰今年臘月廿
存問禮優至當入寺之夕九日去無所去衆驚訝
九日來無明來當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
莫二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
至二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
電二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
度二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
者二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
福二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
龍二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
上二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
京二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
日二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
在二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
兩二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
夜二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
夏二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
國二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
道二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
為二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
致二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾
而二其意明年當延慶風馬兩佛祖不四一機十督轉疾

柳有者頌居其中
圓通大德蘭洲象
卓行魁德橫鐘
所至擊鼓撞鐘
龍伯最化有終
尅期溢利光燿
火餘設利光燿
宰堵鼎峙海上
虛堂之道光禪
南山我々石可
百世過者宜肅恭

宜爾離還來象龍
佩錫異數禮益隆
龍人圍繞華雨露
天覺范蠢起凡庸
啓覺范蠢起凡庸
獸鬼不夜貫長虹
海天不夜貫長虹
山君川右謹堂封
豐惟國師劬厥躬
勒之于昭
法孫比丘立

群書一覽の塔の法模刻本漢文の跋と引て大應國師の塔銘本州中島郡の真寺に在者
益元人の刻す所なり。其後走て碑銘と元朝の賢豪の刻す所なり。其後走て碑銘と元朝の賢豪の刻す所なり。
航して是と得てゆるといふ。余原予聞と世て師の塔と拜し則合掌讚歎して曰四絶の
観ニうと又三つ佛とまよふもの。法塔のるさと作さ文とぬむりの。法字の定と玩ひ士君
ふ。則介ふの人の大邦と欽する。ゆとを次其れり。この徳て是師徳と高徳禪師と謬と撰と
布施も寛政己未尾法泰島嶽とる。又多安五年威宗和尚が著す所の大應録も此法と
出せり。されど小異ありとす。
今本書のうして記す
塔頭西住院
梅華死尽藏小尾之妙真寺
西住院よりハコトウリ
大陽菴
菴に保童丸の法とて賣茶元禄の頃伯信其陰居一可笑軒と号一小兒と療治次
修ふ名を名小来。國君地と居て居一と寺一と久法寺と名つけ小兒科とやらとす
かのらと名付て留所とす。大陽菴
其製法と失つ候今に委系す
耕雲庵
種玉菴
桂昌菴
瑞芳菴
丹羽郡
鎌海道村のわち苗も三世大猷圓融禪師開基。其後苗も中へ易地一寛正年中無徳和尚
こゝに遷玄あり。其後苗も三世大猷圓融禪師開基。其後苗も中へ易地一寛正年中無徳和尚

妙興寺記天祥菴鐘銘さじ書
人うり文明元丑年寂す

清寥菴等り

妙興寺
時製備殿
然寶殿類
靈光壯麗
偏警甲四方
樹結花鬘
連福
土風傳鳥語
出空廓可朝賜
額無雙字開
士遺蹤一
炷香探勝魚鱗
禪寂地開披
貝葉坐繩林

小栗海道

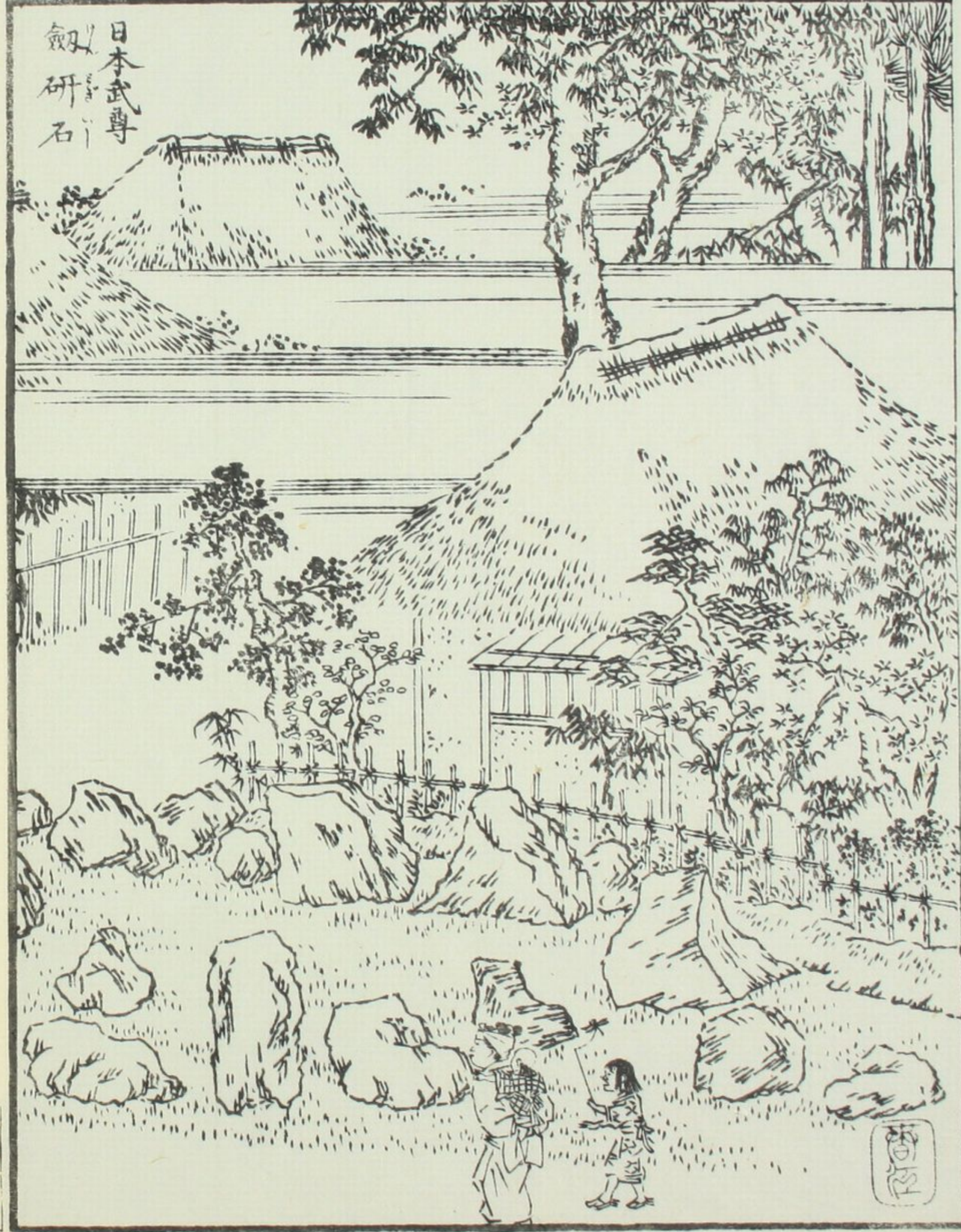
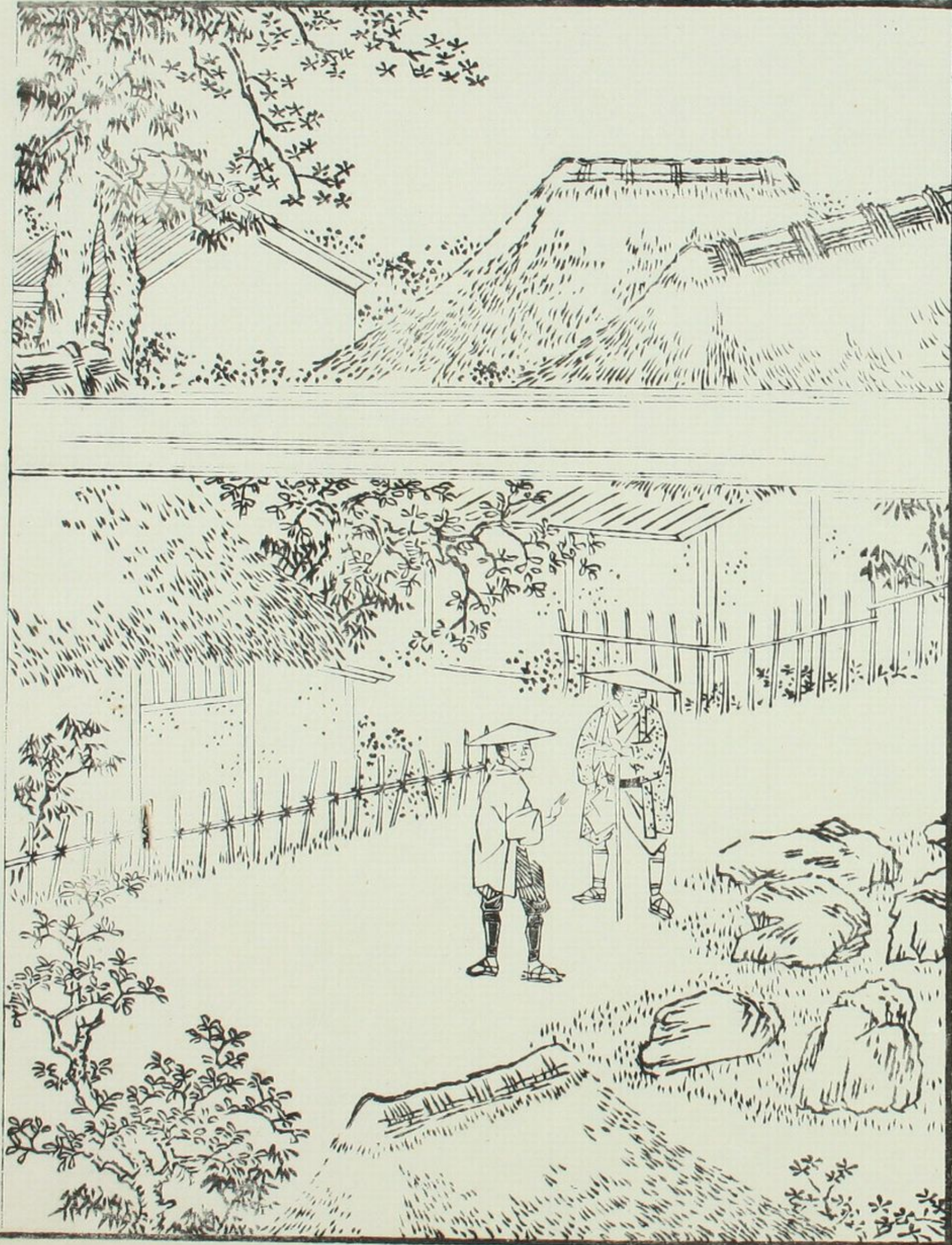
小栗寺の南にあり今廢す
むり小栗判官横山庄司と不和して

庄司判官と害口んと謀りて判官が妻照手娘の嫁うれど父の縁と夫小告けき判官湯舎と退き照手も父の勅亂と交り清水と編歴りて判官病まにうりけし照手なまけて夫と地車小の巳郝小のうりてはけととて傳隣村赤池の里人安友氏の宅地小栗海道の松とつみ古木のこもりとい小栗判官車街道とい浄瑠璃狂言小より俗説うりされども諸ふもに此地のぶとい傳たる所少くは又美濃の不破郡青墓とい照手娘いり長者清公奉公朝夕清水と汲きとい少くは業といりといの近々授戸村小照手娘の清水とい舊跡ありとい濃州志畧小より小栗が

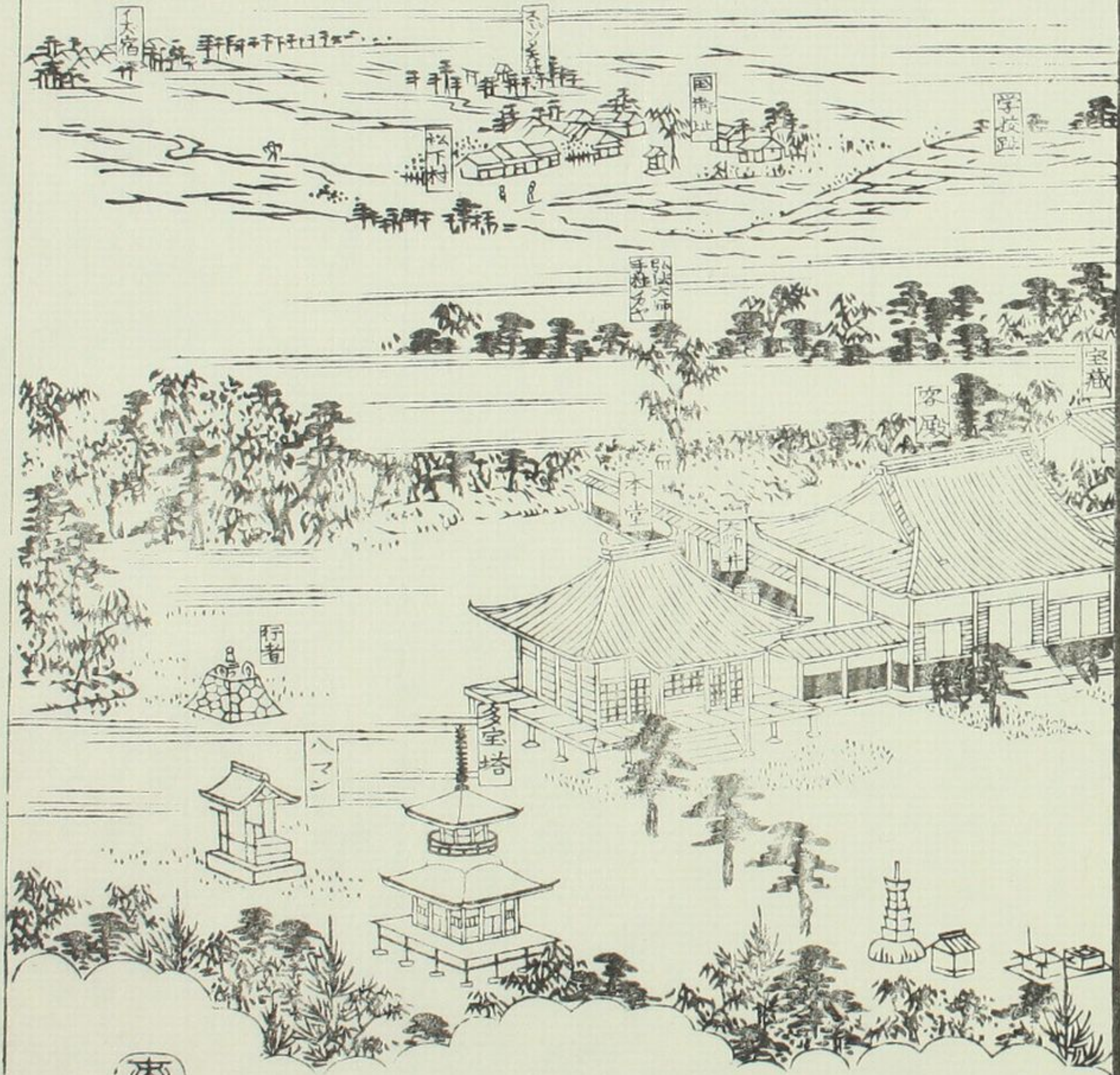
實説ハ湯倉大卓紙ニ應永三十年の頃常陸國の任人小栗孫太郎満重及逆の事りて源持氏小退治りてとるが其子小次郎助重忠いて鎌倉の権現堂とい所小行す或敵と希りけるに家あり強盗とい小次郎と殺し隨身の宝と奪ひ取むとい毒酒と進めて餐けりとい照姫とい遊女其謀計といをくに小栗小告い小次郎酒と飲やりて吞み碎れりとい夜中二希りと遊女賊等が盗といつあざ置る悪馬小取とい鞭を打て後津の道場小とい入り又逆のびて三河小末とい後永享の頃小次郎三河より湯舎にわり照姫と尋出り後之の宝とわりつりといとて其物詰と湯舎とい作り汲けるといあり世に流布する小栗實記といこのもといふ足らざる俗書なり

砥塚

戸塚村あり村の中に巨岩多しむり日本武尊ひそきて剣と磨りいりし修砥塚とい名づけ村名といり其石の性やとい砥礪の石といり相摸國高座郡の戸塚岩といり諸ふ小多き地多しといり必大岩のむりといり田大神宮社といり産土神といり砥塚の石といりといり雲根志小屋州中島郡砥

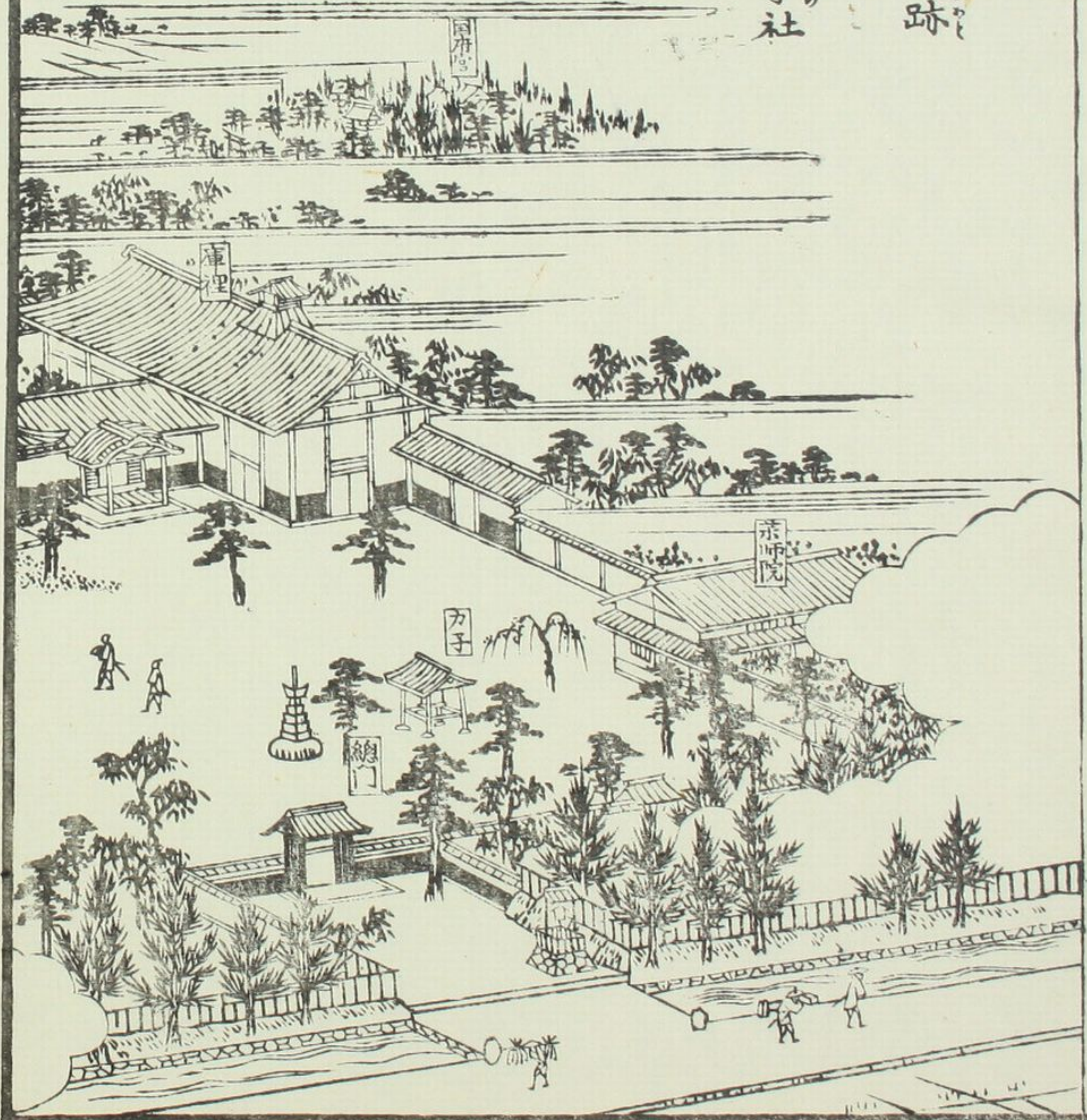


過書學校地
 清水春流
 約歷時集
 路傍荒忽
 晚風寒古
 學有名不
 耐嘆前代
 真英皆物
 故關人竹
 立渡闌干



香位

万德寺
 國衙廳館跡
 同學技址
 修理若御子社
 國衙舊址懷古
 天野信景
 松下無人孤
 柳映兔葵綠
 麥秀平疇千
 年車往山川
 老遠鶴空歸
 一古坵

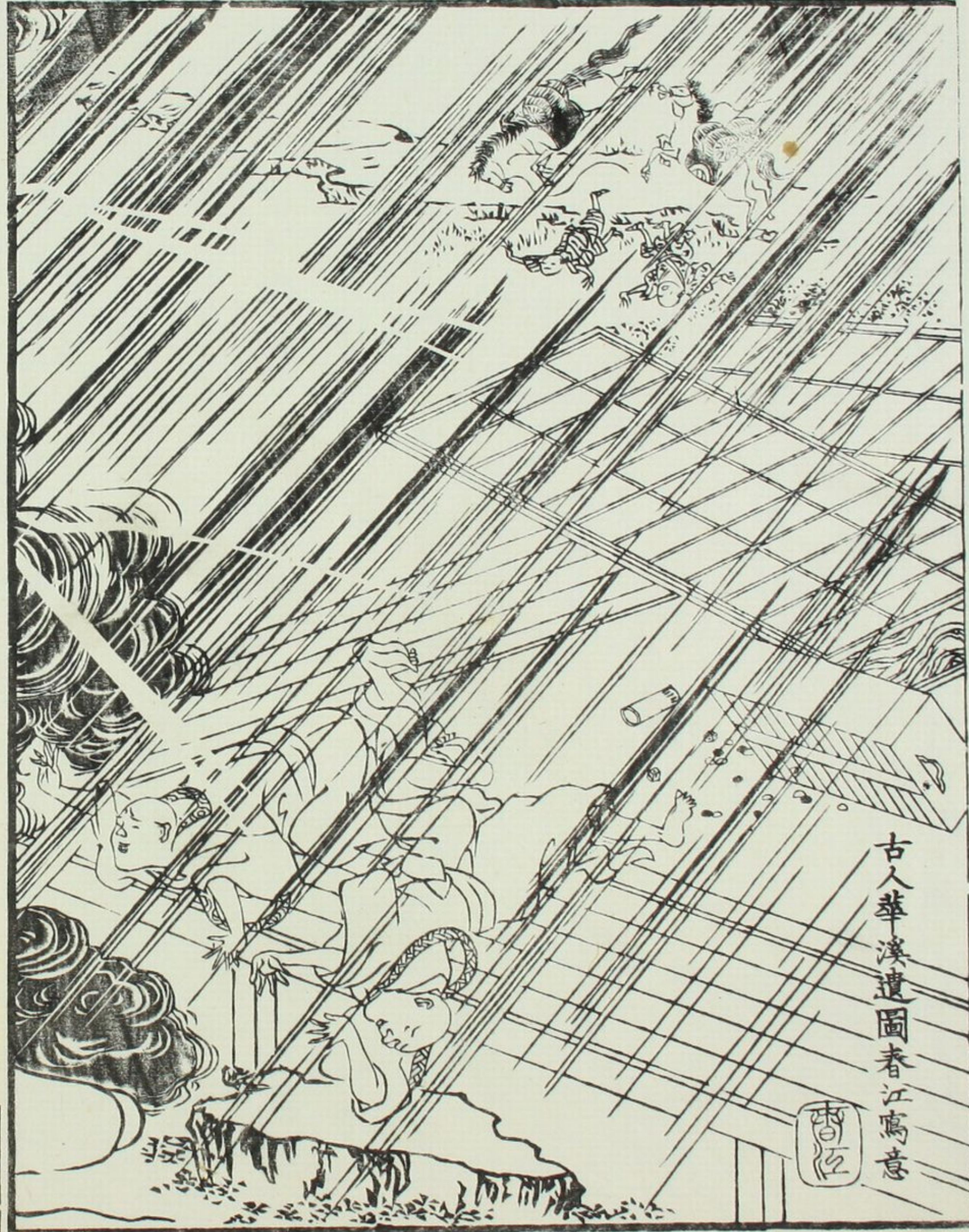


八二九



幸あはれ

砂石集に載り
 文永七年七月
 十七日尾張の冬
 下津の若小雷
 落てた馬三足
 踏んで小家に
 入りて帷子小
 笠をかき双六
 して居る法師の巻
 ふかきわたりてかき
 どの敷にさかきかき
 法師もつらふりけり
 次の日本の源ありとの
 追せよたふす侍り
 云々云々云々云々云々
 のあるものにほらさる幸あはれとの知了所あると
 は因小を画するハ砂石集の文意に
 よってと一巻を成す



古人華漢遺圖春江寫意

雷

織田兵庫助敏廣城址

此城村あり故廣武衛家之軍將之武衛家後河の今川家之是に
の必境と備して數合戦す敏廣是に在陣の頃武衛家之
田義敏と家督の事論より軍起り尾張の軍兵と京都にのりて軍兵と争ひあり敏廣
是にの陣と備してゆゑ早に中河の流へも畔起りて下津の城と攻んとす事ありていつ
りては備へりてあり

加藤遠江守光泰舊宅

田村にあり光泰より作り作りて秀吉よふは
彼の一入より又と左近大夫貞泰とよみ光泰織田家之は後豊長
家之屬一武功を以て修小甲斐因二十四万石と拜領し文禄のころ少朝鮮征伐の軍時
彼地小押原ありてこころ名と取り其陣中にて卒去れり事其ハ人々の如く所見れ
とと此地す又加藤左馬助嘉明も田村の人の豊長ありては年廿一歳と近江柳井の合
戦先鋒七人のうちの一人と見え殊に威風凛々なり天正十三年の秋伊藤本正本の城六万二千九百石
と相討りて年月と進て移進し寛永四年二月十日奥州全平
若松の城四十万石と相討りて死す世の人此より知る所あり

小池山正明寺

小池山正明寺村あり海濱宗之孫村役所あり本寺あり阿波院
此の古佛ありて作り作りて地元の縁へ行基菩薩の真作あり

四ツ屋

井口村と六角堂村の堺あり起街道と一官街との岐あり俗に近分ともいふ此茶屋
敷ありて人々より温飽といふ茶屋の名物とて有名なり

浅野長勝屋敷跡

六角堂村のり長勝ハ秀吉公の此政所及びゆゑ長政の
又より長勝又よりといひて信長公のち後より

興化山長光寺

田村のり海濱宗
清須慈見院末 開基元年月日定りあり明應八年中
興一其後元禄四年崑山長光再建次○六角堂
か多地藏菩薩の銅像
其長五尺七寸 文徳
天皇の仁壽元年梵僧一人来りて一夜のうちに満ちりて其佛をて天下に凶悪なりとす付ハ
寺像全身ありて半身手足多にけと履し其興地と示りて寺古今變りて寺代も依り

六角堂長光寺

尾張名所記云此堂ハ武田
番匠が造る所本寺地蔵ハ
釜に乗てあり大和国大田
寺の地蔵を模とあり
寺道能化と形も堂と六角小
造なり



香

